SONY

4-136-744-**04**(1)

リアルタイムビデオ
トランスミッター

取扱説明書

RVT-SD100

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

LocationPorter

この説明書は、再生紙を使用しています。

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1
http://www.sony.co.jp/

Printed in Japan

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したときは

❶ **電源を切る。**
❷ **電源コードや接続ケーブルを抜き、バッテリーを取りはずす。**
❸ **お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

指示

プラグをコンセントから抜く

破裂

高温

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

水ぬれ禁止

目次

その他

商標について

- LocationPorter はソニー株式会社の登録商標です。
- ATRAC3plus はソニー株式会社の商標です。
- FOMA は株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの登録商標です。
- 「フレッツ」は、NTT 東日本・NTT 西日本のサービス名であり、登録商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では ™、® マークは明記していません。

- 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- ソニーが配布した本機用のソフトウェア以外のソフトウェアをインストールすることはできません。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

⚠警告

火災 感電

下記の注意を守らないと、**火災や感電により死亡や大けがに**つながることがあります。

禁止

電源コードやACアダプターを傷つけない

電源コードやACアダプターを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック、棚などの間に、はさみ込まない。
- 電源コードやACアダプターを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードやACアダプターを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードやACアダプターが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

指示

表示された電源電圧で使用する

製品の表示と異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。
日本国内では100 Vでお使いください。

禁止

付属の電源コードやACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。
ACアダプター本体の形状が同じものもありますので、ご注意ください。

指示

指定の電源で使用する

取扱説明書に記されているバッテリーパックまたはACアダプターでお使いください。指定以外の製品でのご使用は、火災の原因となります。

指示

電源コードのプラグおよびコネクターは突き当たるまで差し込む

真っ直ぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

禁止

雨のあたる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所やこの取扱説明書に記されている使用条件以外の環境に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットや裏蓋を開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

⚠注意

下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に**損害**を
与えることがあります。

接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。

吸気口、排気口をふさがない

吸気口、排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 壁から 10 cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。

コード類は正しく配置する

電源コードや接続コードは、足に引っかけると本機の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。充分注意して接続・配置してください。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

使用前には、取り付けプレートとショルダーベルトに損傷やゆるみのないことを確認する

取り付けプレートとショルダーベルトに損傷やゆるみがあると、落下してけがの原因となることがあります。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

移動の際は電源コードや接続コードを抜く

コード類を接続したまま本機を移動させると、コードに傷がついて火災や感電の原因となることがあります。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

製品の上に乗らない、重い物を載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、内蔵バッテリーを抜いておく

内蔵バッテリーの発熱や液漏れなどにより、火災やけが、やけどや周囲を汚す原因となります。

通電中の AC アダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

電池の使いかたを誤ると、液漏れ・発熱・破裂・発火・誤飲による大けがや失明の原因となるので、次のことを必ず守ってください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
  ❶ 機器の電源を切るか、バッテリーチャージャーの電源プラグを抜く。
  ❷ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。
- 電池の液が目に入ったら
  すぐにきれいな水で洗い、ただちに医師の治療を受ける。
- 電池の液が皮膚や衣類に付いたら
  すぐにきれいな水で洗い流す。
- バッテリースロット内で液が漏れたら
  よくふきとってから、新しい内蔵バッテリーを入れる。

ここでは、本機で使用可能なソニー製リチウムイオン電池についての注意事項を記載しています。

- 内蔵バッテリーの充電には、本機または専用バッテリーチャージャーを使用する。
- 外部バッテリーの充電には、専用のバッテリーチャージャーを使用する。
- 火の中に投げ入れたり、加熱、半田付け、分解、改造をしない。
- 直射日光の当るところ、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で、使用・放置・充電をしない。

⚠警告

- ハンマーでたたくなどの強い衝撃を与えたり、踏みつけたりしない。
- 接点部や⊕極と⊖極をショートさせたり、金属製の物と一緒に携帯・保管をしない。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめる。
- 電池使用中や充電、保管時に異臭がしたり、発熱・液漏れ・変色・変形があったときは、すぐに使用や充電をやめる。
- 水や海水につけたり、濡らしたりしない。

⚠注意

内蔵バッテリーの充電のしかたについては、本取扱説明書をよく読む。
外部バッテリーの充電のしかたについては、バッテリーチャージャーの取扱説明書をよく読む。

電池のリサイクルについて

Li-ion

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。
充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店については、有限責任中間法人 JBRC ホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

使用上のご注意

内蔵バッテリー充電についてのご注意

- 周囲の温度が5～35℃の範囲で充電してください。温度が低いと充電しにくくなりますので、10～30℃での充電をおすすめします。
- 安全のために、指定された別売りの内蔵バッテリーをご使用ください。
- ACアダプターにつないでいるときは、内蔵バッテリーを装着しているときでも、ACアダプターから電源が供給されます。

内蔵バッテリーについてのご注意

内蔵バッテリーは充電後、使用していない場合でも、少量ずつ自然に放電するため、長時間放置した場合、使用可能時間が短くなる場合があります。
使用前には、再度、充電することをおすすめします。
また、充電回数、使用時間、保存期間にともない少しずつ性能が劣化していきます。
このため、充分に充電を行っても使用可能時間が短くなったり、寿命で使えなくなることがあります。
この場合には、新しい内蔵バッテリーをお買い求めください。

- 内蔵バッテリーを持ち運ぶときや保管するときは、機器に取り付けるか、お買い上げのときに入っていた梱包材に入れてください。
- なるべく涼しいところ（約20℃）で保管し、充電は周囲の温度が10～30℃の所で行ってください。内蔵バッテリーを長持ちさせることができます。
- 内蔵バッテリーを長期保管する場合には、フル充電の後、20分間程度映像伝送を行ってから、冷暗所に保管してください。
- 温度が低い（10℃以下）と、内蔵バッテリーの性能が低下し、内蔵バッテリーを使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用になるために、ご使用前に内蔵バッテリーを室温（約20℃）に戻しておいてください。
- 予備の内蔵バッテリーを準備しておくことをおすすめします。
- 内蔵バッテリーは消耗品です。内蔵バッテリーの駆動時間が短くなってきた場合には、弊社指定の新しい内蔵バッテリーと交換してください。内蔵バッテリーの交換に関して不明な点などがございましたら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

はじめて内蔵バッテリーをお使いになるときは

内蔵バッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときから内蔵バッテリーが消耗した状態になっていることがあります。

AC アダプターについてのご注意

- AC アダプターを海外旅行者用の「電子式変圧器」などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。
- ケーブルが断線した AC アダプターは危険ですので、そのまま使用しないでください。
- AC アダプターで使用する場合は、周囲の温度が 0 ～ 35 ℃の範囲で使用してください。

有寿命部品について

本機には有寿命部品が含まれています。有寿命部品とは、誤使用による磨耗･劣化が進行する可能性のある部品を指します。各有寿命部品の寿命は、ご使用の環境やご使用頻度などの条件により異なります。著しい劣化･磨耗がある場合は、機能が低下し、製品の性能維持のため交換が必要となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。
本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が生じることがあります。
そのままご使用になると故障の原因となります。
結露が生じたときは、水滴をよく拭き取ってください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。
管面または液晶面が冷えているときは、水滴をふきとっても、また結露が生じてしまいます。
全体が室温に温まって結露が生じなくなるまで、電源を入れずに約 1 時間放置してください。

はじめに

本機の特長

リアルタイムビデオトランスミッター RVT-SD100 は、ソニー独自の映像・音声圧縮技術を結集した、高画質・高品質な「リアルタイム映像伝送システム」です。
FOMA などのモバイル回線を使って、様々な場所からのリアルタイム映像伝送が行えます。

機動性の高いコンパクトシステム

A5 サイズ、重さ 1.5 kg の小型軽量化により、1 人で現場に携帯しての撮影が可能です。FOMA 回線との組み合わせにより、移動しながら撮影・伝送ができます。また、本システムは、トランスミッター（Tx）とレシーバー（Rx）で構成されますが、Tx/Rx の切り替えが可能です。

モバイル回線での高画質リアルタイム伝送

ソニーが独自に開発した QoS（Quality of Service）により、揺らぎの激しいモバイル回線でも、高品質で安定したリアルタイム伝送が可能です。さらに、各回線の特性に応じた最適化により、その回線で実現できる最高画質で伝送します。

ソニー独自の高画質・高音質コーデック

- H.264/MPEG-4 AVC 映像コーデック
  高精度動き検出アルゴリズム、MPEG-2 の 2 倍以上の圧縮効率を実現する H.264/MPEG-4 AVC を採用しています。低ビットレート伝送におけるブロックノイズやモスキートノイズを大幅に軽減します。
- ATRAC3plus 音声コーデック
  低ビットレートでの伝送においても自然でクリアな音を再現します。

多様なネットワークに対応

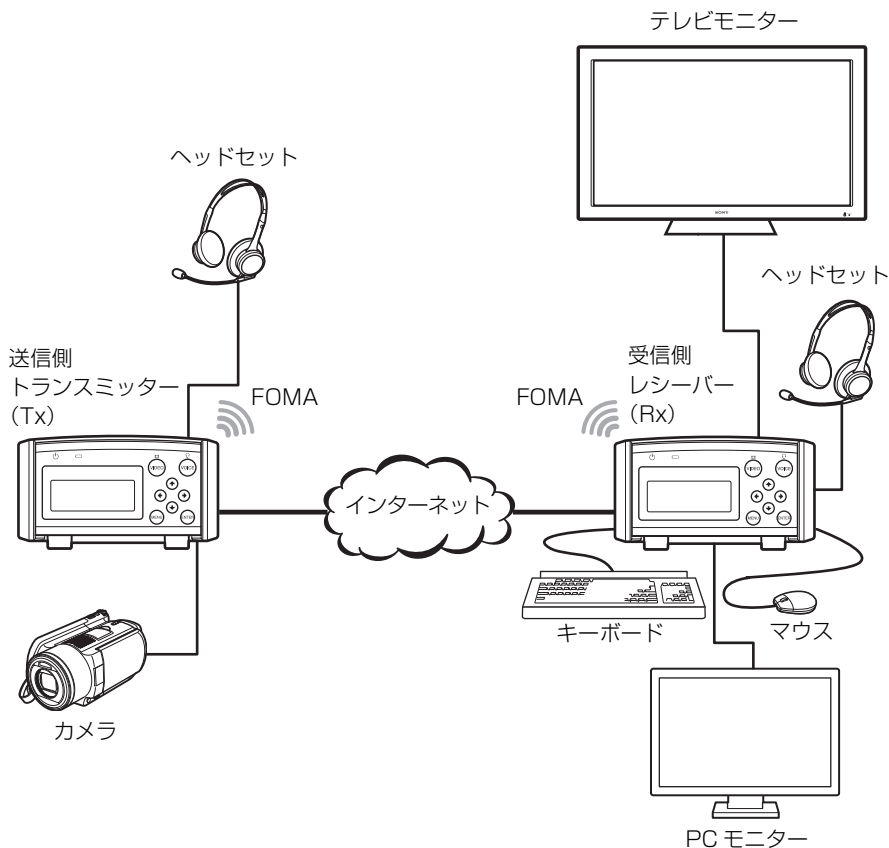
FOMA、有線 LAN に対応していますので、屋内、屋外問わず、さまざまな場所からの映像伝送が可能です。さらに、FOMA は 2 回線同時利用ができるため、1 回線が不安定になっても、もう 1 回線で通信を保持することが可能です。

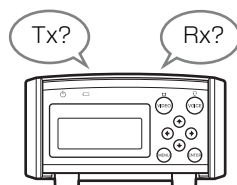
VPN サービス（LocationPorter VPN サービス）に対応

高いセキュリティーと通信コストの低減をサポートする VPN サービスに対応します。
※別途、LocationPorter VPN サービスのお申し込みが必要となります。

システム構成例

以下は、トランスミッター（Tx）とレシーバー（Rx）で構成された基本システム構成例です。

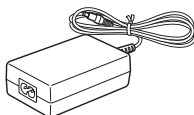
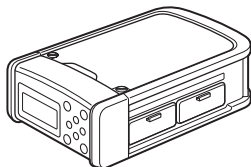
テレビモニター
ヘッドセット
ヘッドセット
送信側
トランスミッター
（Tx）
FOMA
FOMA
受信側
レシーバー
（Rx）
インターネット
キーボード
マウス
カメラ
PC モニター

メモ

RVT-SD100 は、トランスミッター（Tx）とレシーバー（Rx）のどちらにもなることができます。システムを構成する際、あらかじめ本機をどちらで動作させるかを決めてください。

箱の中身を確認する

パッケージを開けたら、以下のものが揃っているかお確かめください。付属品の中に欠けているものがあるときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

- 本体（1）

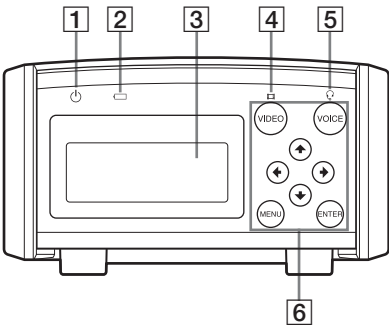
- AC アダプター（1）

- 電源コード（1）

- 取扱説明書（1）
- Windows 使用許諾書（1）
- ソフトウェア使用許諾書（1）
- 通信カードドライバ使用許諾書（2）
- ユーザー登録シート（1）
- B & P ワランティブックレット（1）
- 保証書（1）
- VPN サービスについて（1）

メモ

- 上記以外に、説明書や書類などが同梱されている場合があります。
- 箱と梱包材は、本機を移動したり輸送したりするときに必要です。捨てないで必ず保管してください。
- FOMA、イーサネットケーブル、USB メモリーなどは、お客様でご用意ください。

各部の名称

前面

1 ⏻ 電源ランプ

電源の状態を示します。

色と光りかた	状態
緑点灯	電源オン
緑点滅	電源オン（内蔵バッテリーまたは外部バッテリーで動作中に、内蔵バッテリーの残り容量 10%以下）

2 バッテリーランプ

内蔵バッテリーの状態を示します。

■ 通常時の表示

色と光りかた	状態
消灯	内蔵バッテリーフル充電／内蔵バッテリー未装着／ AC アダプター未装着で外部バッテリーを装着
アンバー点灯	内蔵バッテリーで動作中（残り容量 21%以上）
アンバー点滅（ゆっくり） （2 秒に 1 度、1 回点滅を繰り返す）	内蔵バッテリーで動作中（残り容量 20 ～ 11%）
アンバー点滅（速い） （1 秒に 1 度、1 回点滅を繰り返す）	AC アダプター装着時： 内蔵バッテリーの充電中（残り容量 10%以下） （この場合電源ランプは緑点灯になります） AC アダプター未装着時： 内蔵バッテリーで動作中（残り容量 10%以下） （この場合電源ランプは緑点滅になります）
アンバー点滅 （2 秒に 1 度、2 回点滅を繰り返す）	電源オン時：内蔵バッテリー充電中（残り容量 11 ～ 99%） 電源オフ時：内蔵バッテリー充電中（残り容量 0 ～ 99%）

■ 異常時の表示

色と光りかた	状態
アンバー点滅（素早い） (0.2 秒点灯 /0.6 秒消灯を繰り返す）	内蔵バッテリー充電可能温度の範囲外
アンバー点滅（高速） （0.2 秒間隔点滅を繰り返す）	内蔵バッテリー異常

3 液晶ディスプレイ

本機のステータスを表示したり、設定するときに使います。

4 映像伝送ランプ

画像の伝送状態を示します。

色と光りかた	状態
消灯	伝送準備中／伝送待機中
緑点灯	映像伝送中
アンバー点滅	伝送レート悪化
赤点滅	回線異常

5 音声通話ランプ

音声の通信状態を示します。

色と光りかた	状態
消灯	通信準備中／通信待機中
緑点灯	音声通話中
赤点滅	回線異常

6 操作ボタン

設定や操作をするときに使用します。

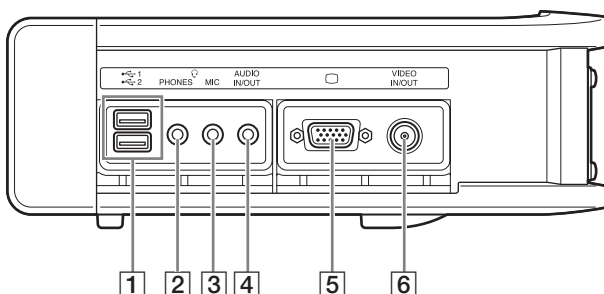
VIDEO（VIDEO）ボタン　：このボタンを押すと、映像が伝送されます。

VOICE（VOICE）ボタン　：このボタンを押すと、音声通話が行えます。

ボタン　：カーソルの位置を移動させたり、別の項目に移動するときに使用します。

MENU（メニュー）ボタン　：設定メニューに移行するときに使用します。

ENTER（確定）ボタン　：表示されているメニューや値を決定したり、操作を実行するときに使用します。

右側面

1 USB 端子

FOMA を接続します。

2 回線同時利用に対応しています。

2 ヘッドホン出力（PHONES）端子

ヘッドセットのヘッドホンを接続します。

3 マイク入力（MIC）端子

ヘッドセットのマイクを接続します。

プラグインパワー方式のマイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。

4 音声入出力（AUDIO IN/OUT）（ステレオ）端子

カメラからのアナログ音声信号を入力、または外部機器にアナログ音声信号を出力します。

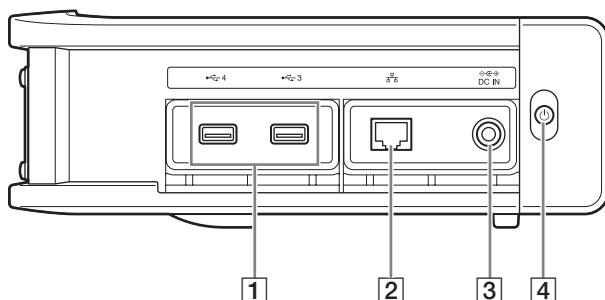
5 PC モニター出力端子

PC モニター[1] を接続します。

6 映像入出力（VIDEO IN/OUT）端子（コンポジット）

カメラからの映像信号を入力、または外部機器に映像信号を出力します。

1）1,024 × 768（XGA）解像度で表示可能なもの。

左側面

1 USB 端子
USB マウスや USB キーボードを接続します。

2 LAN 端子
100 BASE-TX のイーサネットケーブルを接続します。

注意

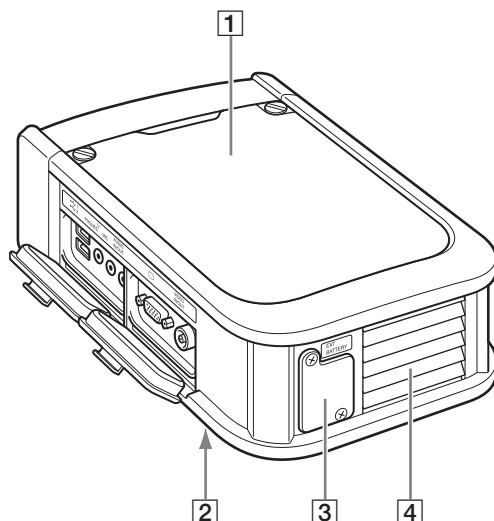
安全のために、周辺機器を接続する際は、過大電圧を持つ可能性があるコネクターをこの端子に接続しないでください。
接続については本書の指示に従ってください。

3 DC IN 端子
付属の AC アダプターを接続します。

4 電源ボタン
2 秒間押すと、電源が入ります。
電源が入っているときに 2 秒間押すと、電源が切れます。

警告

本機は電源遮断スイッチを備えていません。
AC アダプターご使用の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。
万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

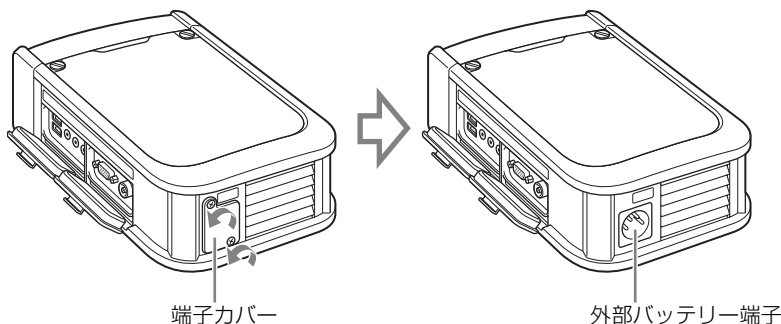
上面／後面

1 バッテリーカバー／バッテリースロット

バッテリーカバーを取りはずして、別売りの内蔵バッテリーを装着します。

2 吸気口

吸気口をふさがないように注意してください。吸気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

3 外部バッテリー端子

端子カバーを取りはずして、外部バッテリーを接続できます。
接続する外部バッテリーは、「推奨接続機器」（20ページ）に記載されている機種をお使いください。

4 排気口

排気口をふさがないように注意してください。排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

推奨接続機器

本機で動作確認している機器は以下のとおりです。

ヘッドセット

- ソニー製 DR-220DP/DR-220DPV

外部バッテリー

- ソニー製 BP-GL95/BP-L80S

外部バッテリーアダプター

- ソニー製 BKP-L551

受信側ネットワーク

- LAN モード： グローバル IP アドレスが割り振られた光回線（FTTH）
- PPPoE モード： グローバル IP アドレスが割り振られた光回線（FTTH）（PPPoE を使用すると、ルーターを接続せずに B フレッツ回線を利用できます）。
- FOMA モード： FOMA（最新の対応機器情報は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください）。

送信側ネットワーク

- LAN モード： グローバル IP アドレスが割り振られた光回線（FTTH）
- PPPoE モード： グローバル IP アドレスが割り振られた光回線（FTTH）（PPPoE を使用すると、ルーターを接続せずに B フレッツ回線を利用できます）。
- FOMA モード： FOMA（最新の対応機器情報は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください）。

準備

準備の流れ

以下の流れで本機を使用するための準備を行います。

はじめに　本機を 2 台用意し、送信側か受信側かを決める

Step 1 別売りアクセサリーを取り付ける（22 ページ）

↓

Step 2 設置する（26 ページ）

↓

Step 3 送信側に各機器を接続する（27 ページ）

↓

Step 4 受信側に各機器を接続する（29 ページ）

↓

Step 5 電源に接続する（32 ページ）

↓

Step 6 受信側の事前設定を行う（33 ページ）

↓

Step 7 送信側の事前設定を行う（43 ページ）

メモ

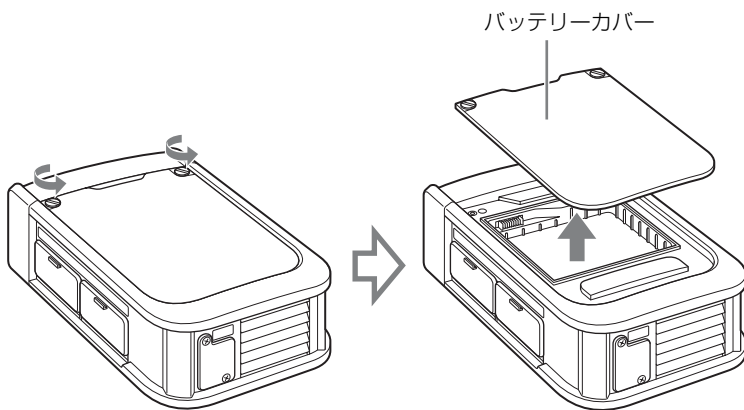
送信側の事前設定は受信側で行い、USB メモリーを使って送信側にインポートできます。その場合は、あらかじめ USB メモリーを用意しておいてください。

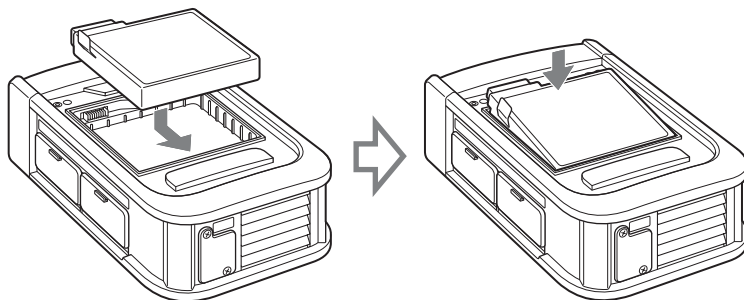
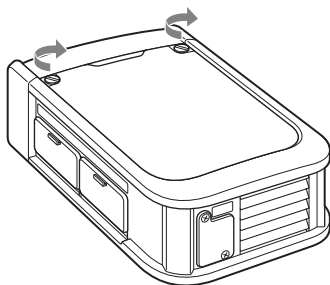
Step 1 別売りアクセサリーを取り付ける

ご使用方法に応じて、別売りの内蔵バッテリー RVTA-BT100 やショルダーストラップセット RVTA-ST100 を取り付けます。

内蔵バッテリーを取り付ける

1 バッテリーカバーを取りはずす。

コインなどを使ってネジをゆるめ、バッテリーカバーを取りはずします。

2 バッテリーをセットする。

本体のへこみに合わせて内蔵バッテリーを上から入れ、図のように押し込みます。

3 バッテリーカバーを元に戻す。

メモ

- 内蔵バッテリーを装着し、本機を電源に接続すると、自動的にバッテリーが充電されます。充電中の ランプの色と光りかたについては、「 バッテリーランプ」（14 ページ）をご覧ください。

- 別売りのバッテリーチャージャー RVTA-BC100 を使って充電することもできます。詳しくは、「バッテリーチャージャー（別売り）の使いかた」（96 ページ）をご覧ください。

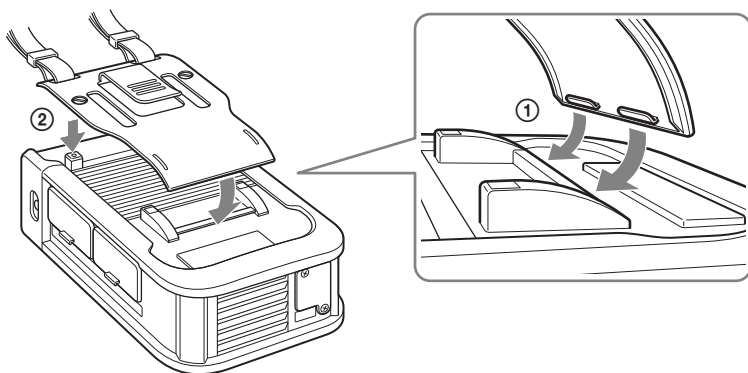
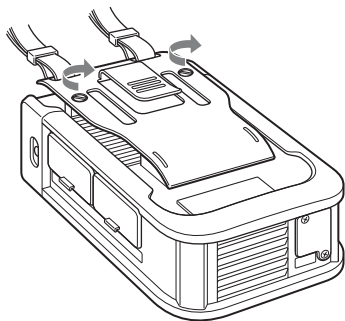
ショルダーストラップセットを取り付ける

本機を携帯する場合に、別売りのショルダーストラップセットを本機の底面に取り付けます。

ご注意

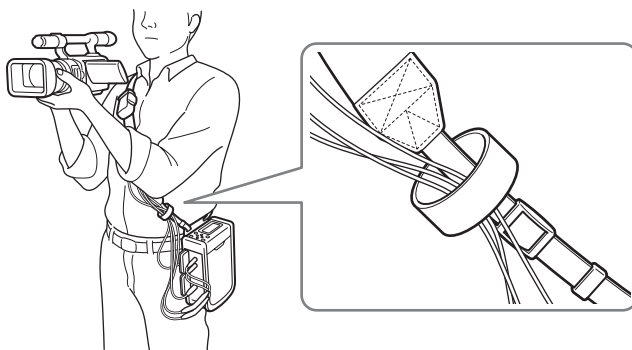
本機に取り付ける前に、ショルダーストラップセットが破損していないことと、ストラップにゆるみがないことを確認してください。破損していたり、ゆるみがあると落下してけがの原因になることがあります。

準備

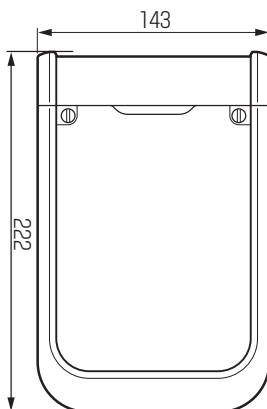
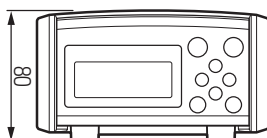
1 ストラップの取り付けプレートの内側にあるツメを本機底面の凸部にかけて（①）、ネジ穴を合わせる（②）。

2 コインなどを使って、ネジを固定する。

ご注意

ネジで固定したら、確実に取り付けられているか確認してください。

肩からの下げかた

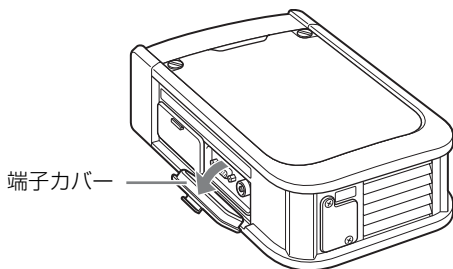
図のように、肩から斜め掛けすると安定します。
ケーブル類や FOMA は、ストラップに付いているマジックテープで束ねておくと便利です。

Step 2 設置する

本機を卓上やラックに据え置きする場合は、設置場所のスペースや強度を充分確認してから設置します。
本機の質量は 1.5 kg（内蔵バッテリー装着時）で、大きさは以下のとおりです。

（単位：mm）

ご注意

本機後面の排気口と底面の吸気口をふさがないように注意してください。

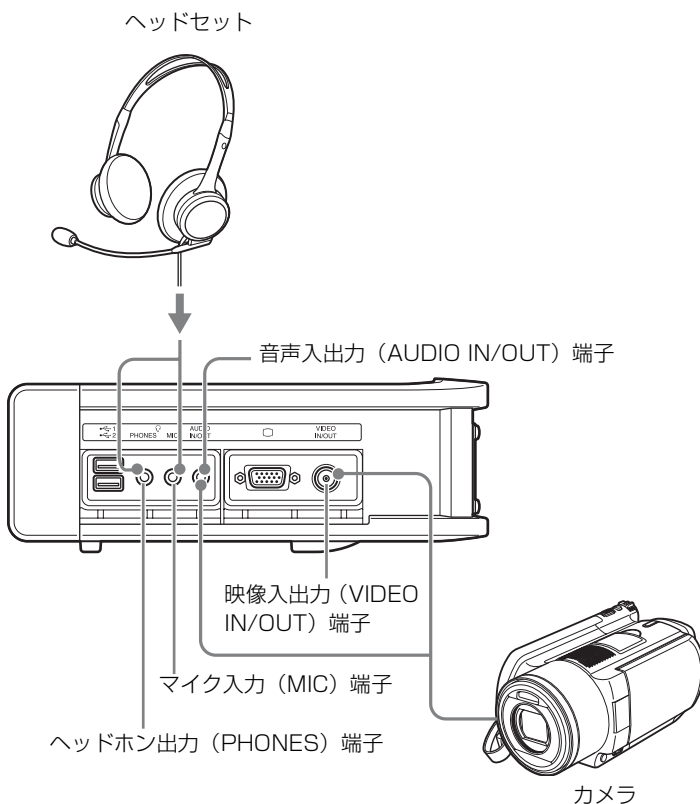
端子カバーの開閉

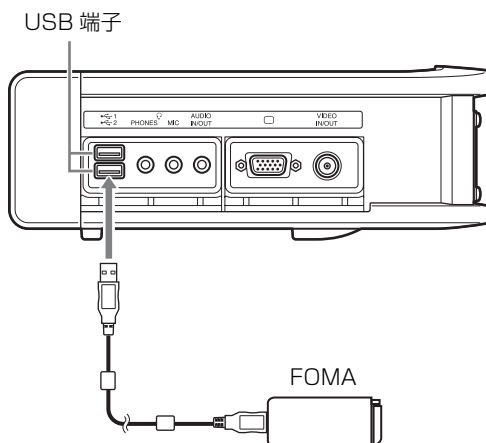
端子カバーのつまみを持って開閉します。

Step 3 送信側に各機器を接続する

送信側（トランスミッター（Tx））として使用する機器の右側面に、カメラやヘッドセット、FOMA を接続します。

カメラ、ヘッドセットを接続する

右側面の端子に接続します。
ヘッドセットのヘッドホンはヘッドホン出力（PHONES）端子に、マイクはマイク入力（MIC）端子に接続してください。

準備

FOMA を接続する

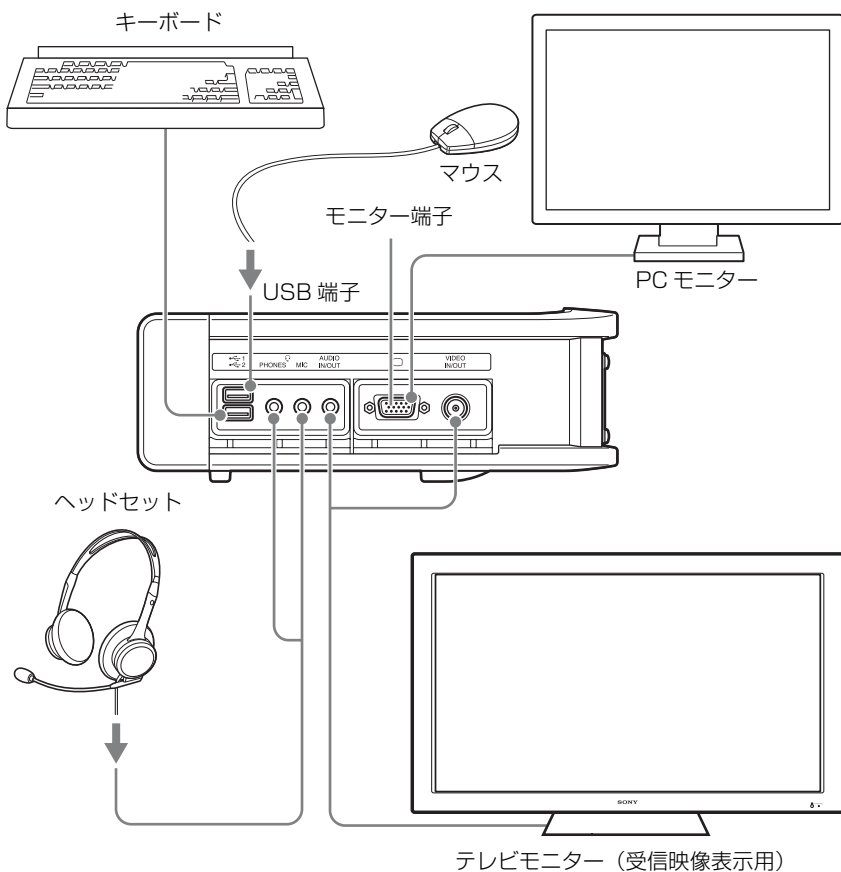
右側面の USB 端子に接続します。

メモ

- FOMA を2回線使用する場合は、必ず同一機種のFOMA を同じ側面のUSB端子に接続してください。
- LAN 接続または PPPoE 接続の場合は、左側面の LAN 端子にイーサネットケーブルを接続します。詳しくは「Step 4 受信側に各機器を接続する」（29 ページ）をご覧ください。
- 本機で動作確認している機器については、「推奨接続機器」（20 ページ）をご覧ください。

Step 4 受信側に各機器を接続する

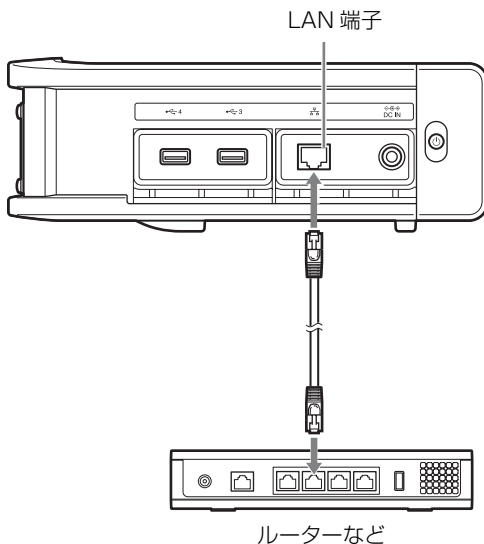
受信側（レシーバー（Rx））として使用する機器の右側面に、受信した映像を表示するモニター、ヘッドセット、PC モニター、USB キーボード、USB マウス、イーサネットケーブルを接続します。

各機器を接続する

PC モニター、USB キーボード、USB マウスを右側面の端子に接続します。

インターネットに接続する

LAN 接続または PPPoE 接続の場合

左側面の LAN 端子にイーサネットケーブルを接続し、インターネット[1]に接続します。

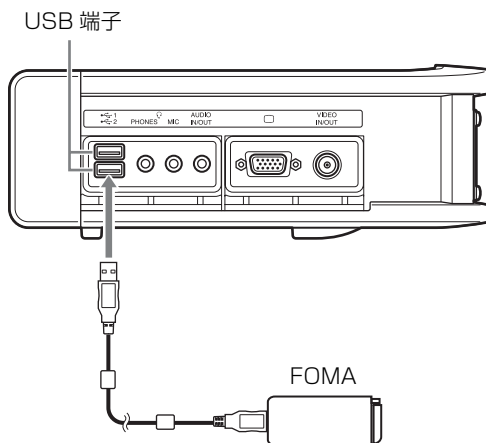
1 LAN 端子にインターネットに接続されているイーサネットケーブルを接続する。

2 LAN 端子上部の LED が点灯するか確認する。

1) • 光回線（FTTH）で、固定グローバル IP アドレスが割り振られている必要があります。
- お使いのネットワークで､通信ポートの 50000 ～ 50610 を通過させる必要があります。

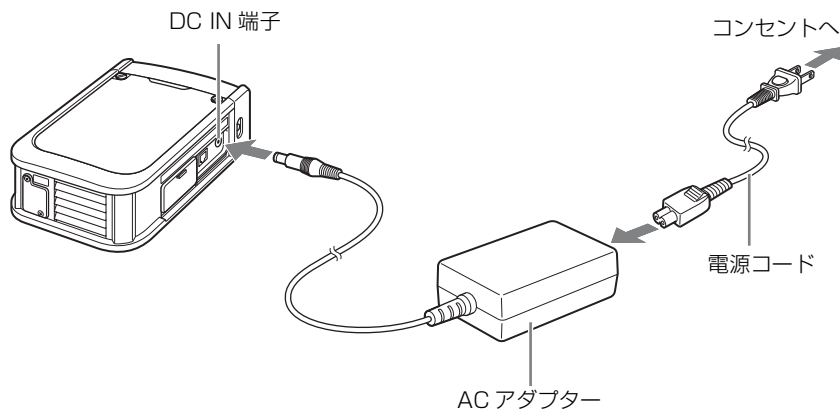
メモ

VPN サービスをご利用の場合は、固定グローバル IP アドレスは不要です。また、通過させる必要のある通信ポートは 434（UDP）、435（UDP）、443（TCP）になります。

FOMA 接続の場合

右側面の USB 端子に FOMA を接続します。

- 受信側で使用出来る FOMA は 1 回線です。
- 最新の対応機器情報は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。
- 固定グローバル IP アドレスが割り振られている必要があります。
- VPN サービスをご利用の場合は、固定グローバル IP アドレスは不要です。

Step 5 電源に接続する

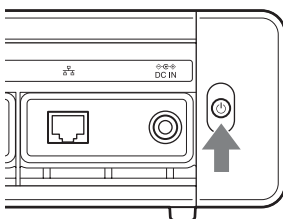
本機の左側面の DC IN 端子に付属の AC アダプターを接続し、電源コードをコンセントに接続します。

事前設定

Step 6 受信側の事前設定を行う

設定を行う前に

事前設定では、ダイヤルアップの設定情報やIPアドレスなど、回線に接続するための情報を入力します。設定情報が記載された書類などをお手元に用意して、参照しながら設定してください。

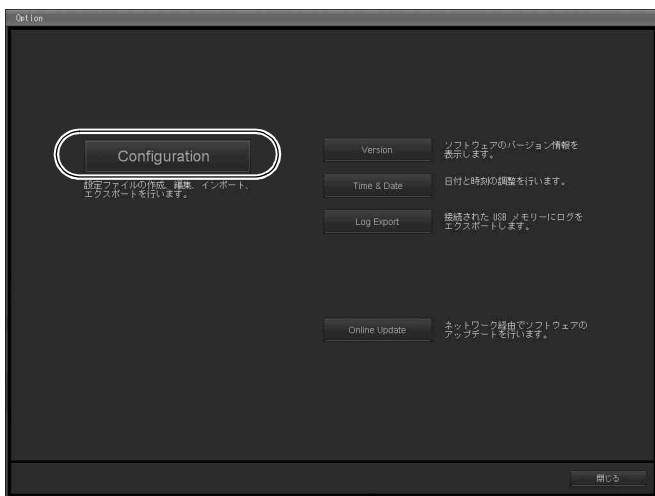
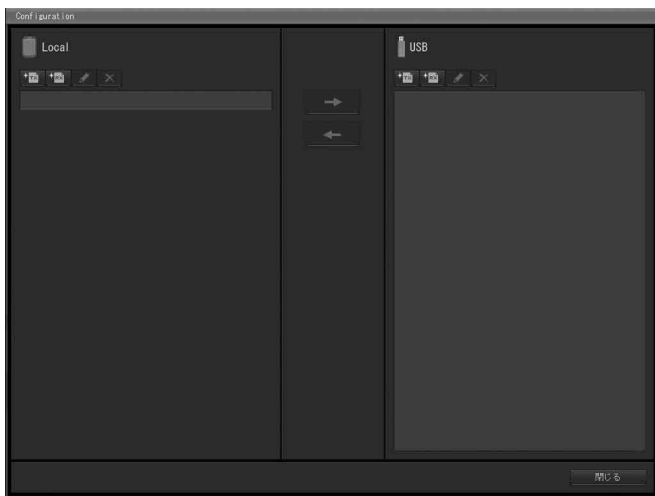
受信側（レシーバー（Rx））の名前や回線接続、送信側（トランスミッター（Tx））の接続許可の設定を行います。

1 左側面にある ⏻ 電源ボタンを押す。

電源が入ると、⏻ 電源ランプが緑色に点灯し、本機の液晶モニターに以下のメッセージが表示されます。

しばらくして本機のソフトウェアが起動すると、PC モニターに次の画面が表示されます。

2 ［Configuration］をクリックする。

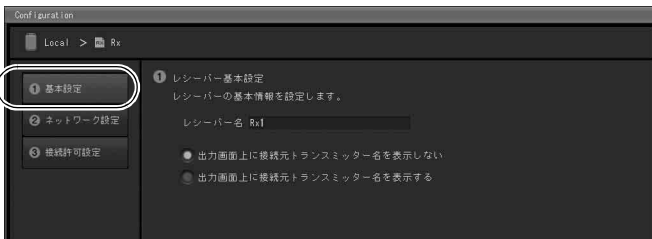
設定ツールが起動します。

事前設定

3 ［Local］の下にある （受信側）をクリックする。

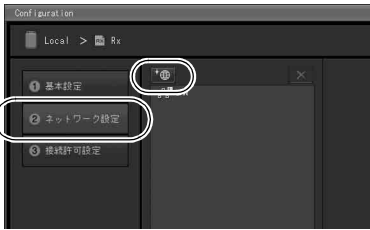
メモ

［Local］に作成できる設定は 1 つだけです。

受信側（レシーバー（Rx））用の設定画面が表示されます。

4 ［① 基本設定］をクリックし、送信側との接続の際に使用するレシーバー名を 20 文字以内の半角英数字で入力する。
出力画面上に接続元トランスミッターの名前を表示する場合には、［接続元トランスミッターの名前を表示する］を選択します。

ここで設定したレシーバー名を、送信側（トランスミッター（Tx））の「② ネットワーク・アクション設定」で［接続先レシーバー設定］の［レシーバー名］に入力してください。

5 使用する回線を選択する。

❶［② ネットワーク設定］をクリックし、 をクリックする。

次の画面が表示されます。

❷ 使用する回線を選択し、［OK］をクリックする。

回線の種類は、以下のとおりです。
- FOMA 回線
- LAN 回線
- PPPoE 回線

VPN 接続する場合は、［VPN サービスを使用して接続する］にチェックマークを付けてください。

設定が追加されます。

メモ

- ネットワーク設定は、10 個まで作成できます。
- 設定を削除したいときは、設定を選択し、 をクリックします。

事前設定

6 追加された回線をクリックし、右側のエリアで回線に接続するためのネットワーク設定を行う。

■ FOMA の場合

ネットワーク名
ネットワークの名前を 20 文字以内の半角英数字で入力します。
任意の名前を設定できます。

ダイヤルアップ設定
ダイヤルアップの設定は、インターネットサービスプロバイダー契約時の情報を元に入力してください。詳しくは、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

ダイヤル
お使いになる FOMA に設定した接続先（APN）のダイヤル番号を入力します。

ユーザー名
上記の接続先にアクセスするためのユーザー名を入力します。1)

パスワード
上記の接続先にアクセスするためのパスワードを入力します。1)

1) 他のパソコンなどからお使いになる FOMA を別途設定している場合や、サービスプロバイダーから指定がある場合は、それと同じユーザー名とパスワードを入力してください。それ以外の場合は、何も入力しないでください。

IP アドレスを自動的に取得する
サービスプロバイダーから割り振られた IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。

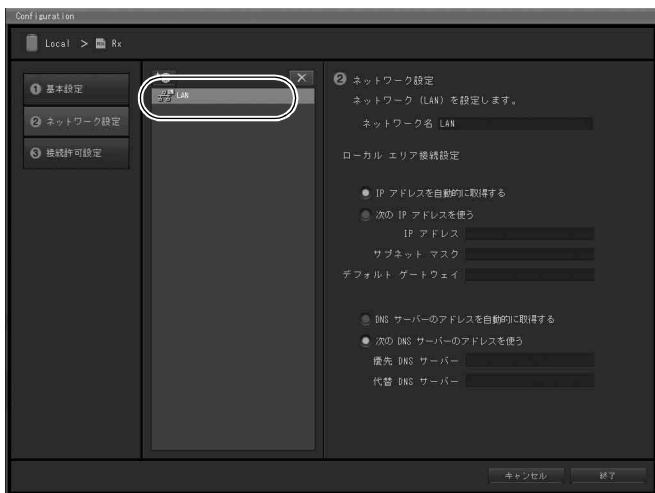
次の IP アドレスを使う
IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、IP アドレスを入力します。

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する
DHCP サーバーなどから自動的に DNS サーバーのアドレスを取得する場合に選択します。

次の DNS サーバーのアドレスを使う
DNS サーバーの IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

メモ

VPN 接続する場合でも、ここでは Virtual IP アドレスの入力は必要ありません。
Virtual IP アドレスは、送信側アクション設定の接続先レシーバー設定で入力します。

■ LAN の場合

ネットワーク名

ネットワークの名前を 20 文字以内の半角英数字で入力します。
任意の名前を設定できます。

ローカルエリア接続設定

IP アドレスを自動的に取得する

IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。

次の IP アドレスを使う

IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、IP アドレスを入力します。

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する

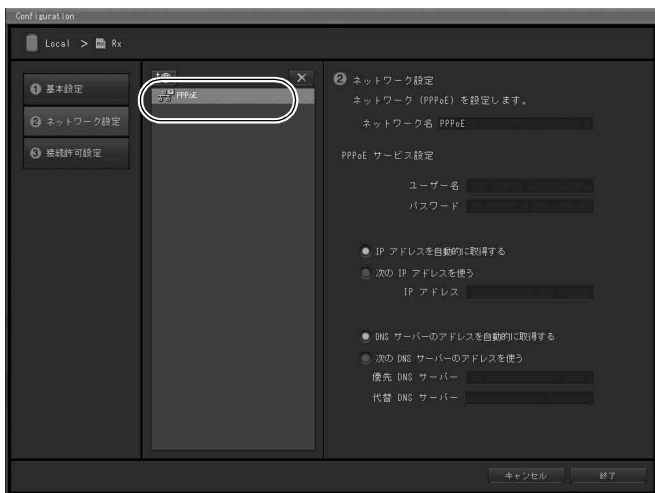
DHCP サーバーなどから自動的に DNS サーバーのアドレスを取得する場合に選択します。

次の DNS サーバーのアドレスを使う

DNS サーバーの IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

メモ

VPN 接続する場合でも、ここでは Virtual IP アドレスの入力は必要ありません。
Virtual IP アドレスは、送信側アクション設定の接続先レシーバー設定で入力します。

■ PPPoE 回線の場合

ネットワーク名

ネットワークの名前を 20 文字以内の半角英数字で入力します。
任意の名前を設定できます。

PPPoE サービス設定

PPPoE サービスの設定は、インターネットサービスプロバイダー契約時の情報を元に入力してください。詳しくは、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

ユーザー名

接続先にアクセスするためのユーザー名を入力します。

パスワード

接続先にアクセスするためのパスワードを入力します。

IP アドレスを自動的に取得する

サービスプロバイダーから割り振られた IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。

次の IP アドレスを使う

IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、IP アドレスを入力します。

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する

DHCP サーバーなどから自動的に DNS サーバーのアドレスを取得する場合に選択します。

次の DNS サーバーのアドレスを使う
DNS サーバーの IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

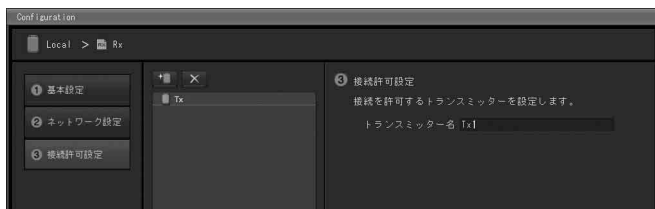
メモ

VPN 接続する場合でも、ここでは Virtual IP アドレスの入力は必要ありません。Virtual IP アドレスは、送信側アクション設定の接続先レシーバー設定で入力します。

7 ［③ 接続許可設定］をクリックし、接続を許可するトランスミッター（Tx）を設定する。

接続許可設定は、20 個まで作成できます。

❶ をクリックする。
をクリックすると、設定が追加されます。

❷ 追加された設定を選択し、接続を許可するトランスミッターの名前を半角英数字で入力する。
トランスミッター名は、送信側（トランスミッター（Tx））の「① 基本設定」で設定するトランスミッター名と同じ名前を入力してください。

❸ 複数のトランスミッターの接続を許可するときは、手順 ❶ ～ ❷ を繰り返し、接続許可設定を追加する。

8 設定が終了したら、［終了］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

9 ［はい］をクリックする。

設定が保存されます。

以上で受信側（レシーバー（Rx））の事前設定は終了です。
続いて、送信側（トランスミッター（Tx））の事前設定を行います。

メモ

設定変更については、「設定を変更するには」（51 ページ）をご覧ください。

Step 7 送信側の事前設定を行う

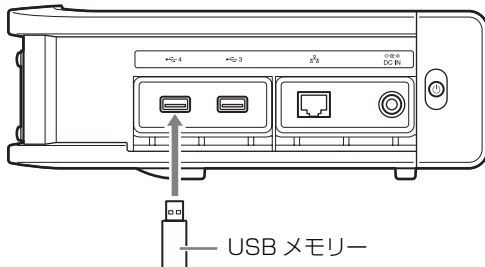
送信側の設定を行うには、以下の方法があります。

- 送信側の機器にキーボード、マウス、PC モニターを接続し、設定ツールを使って設定する。
- 受信側の機器で設定し、USB メモリーを使って送信側の機器に設定ファイルをインポートする。

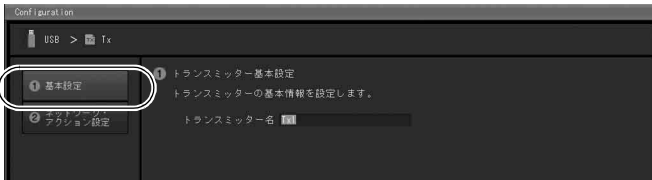
事前設定を行う

送信側（トランスミッター（Tx））の名前や回線接続、映像／音声の伝送に関する設定を行います。

ここでは例として、受信側の機器で設定し、USB メモリーを使って送信側に設定をインポートする手順を説明します。

1 受信側機器の左側面にある USB 端子に USB メモリーを接続する。

2 ［USB］の下にある （送信側）をクリックする。

送信側（トランスミッター（Tx））用の設定画面が表示されます。

3 ［① 基本設定］をクリックし、受信側との接続の際に使用するトランスミッター名を 20 文字以内の半角英数字で入力する。

4 使用する回線を選択する。

❶［② ネットワーク・アクション設定］をクリックし、 をクリックする。

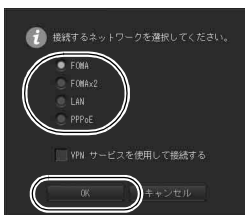
次の画面が表示されます。

❷ 使用する回線を選択し、［OK］をクリックする。

回線の種類は、以下のとおりです。
- FOMA 回線
- FOMA 回線× 2（FOMA 回線を 2 つ使用する場合）
- LAN 回線
- PPPoE 回線

VPN 接続する場合は、［VPN サービスを使用して接続する］にチェックマークを付けてください。

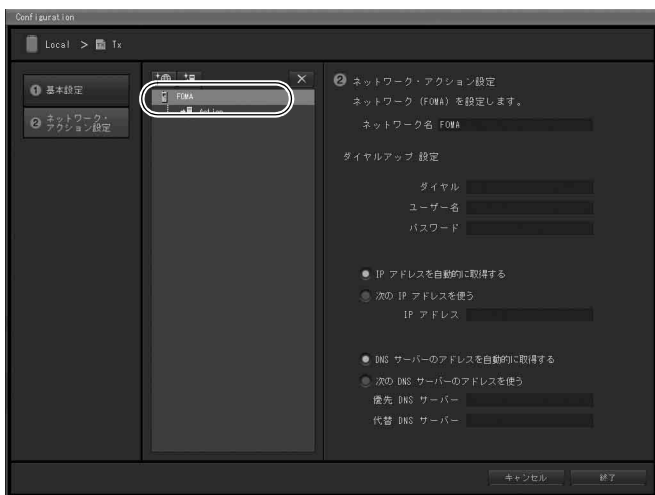
設定が追加されます。

メモ

・ネットワーク設定は、10 個まで作成できます。

・アクション設定は、1 つのネットワーク設定に対して、10 個まで作成できます。

・設定を削除したいときは、設定を選択し、[×]をクリックします。

以降では例として、FOMA 回線の設定のしかたについて説明します。

5 ［FOMA］をクリックし、右側のエリアで回線に接続するためのネットワーク設定を行う。

ネットワーク名

ネットワークの名前を 20 文字以内の半角英数字で入力します。
任意の名前を設定できます。

ダイヤルアップ設定

ダイヤルアップの設定は、インターネットサービスプロバイダー契約時の情報を元に入力してください。詳しくは、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

ダイヤル

お使いになる FOMA に設定した接続先（APN）のダイヤル番号を入力します。
例）ドコモ提供の mopera U の場合
「*99***3#」を入力します。

ユーザー名

上記の接続先にアクセスするためのユーザー名を入力します。1)

パスワード
上記の接続先にアクセスするためのパスワードを入力します。[1]

1）他のパソコンなどからお使いになる FOMA を別途設定している場合や、サービスプロバイダーから指定がある場合は、それと同じユーザー名とパスワードを入力してください。それ以外の場合は、何も入力しないでください。

メモ

FOMA 回線を 2 つ使用する場合は、ダイヤルアップ設定を 2 つ設定します。

IP アドレスを自動的に取得する
IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。

次の IP アドレスを使う
IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、IP アドレスを入力します。

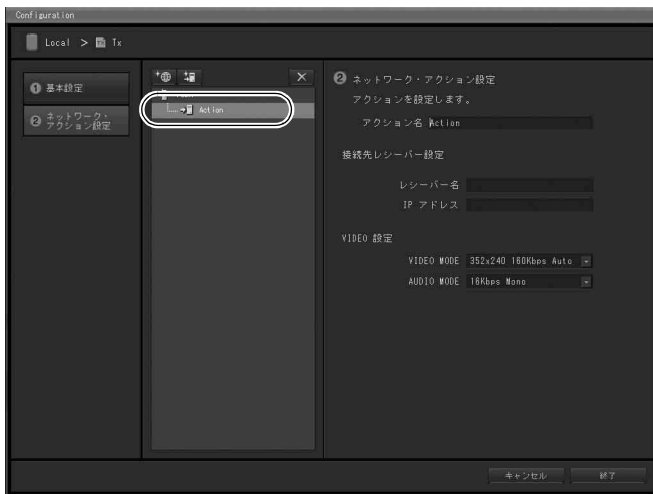
DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する
DHCP サーバーなどから自動的に DNS サーバーのアドレスを取得する場合に選択します。

次の DNS サーバーのアドレスを使う
DNS サーバーの IP アドレスを手動で指定したい場合に選択します。
ここを選択したときは、優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

メモ

VPN 接続する場合でも、ここでは Virtual IP アドレスの入力は必要ありません。
Virtual IP アドレスは、アクション設定の接続先レシーバー設定で入力します。

6 ［Action］をクリックし、右側のエリアで映像や音声の伝送に関する設定を行う。

アクション設定では、回線によって設定できる項目が異なります。例えば、［AUDIO MODE］の音声ビットレート 64 kbps は、LAN 回線でのみ選択可能です。

アクション名

アクションの名前を 20 文字以内の半角英数字で入力します。
任意の名前を設定できます。受信側の機器と画サイズがわかるような名前を付けると便利です。
例）「RxTokyo352」など

接続先レシーバー設定

レシーバー名

受信側（レシーバー（Rx））の名前を 20 文字以内の半角英数字で入力します。
受信側の「① 基本設定」で設定したレシーバー名と同じ名前を入力してください。

IP アドレス

受信側（レシーバー（Rx））の IP アドレスを入力します。
VPN 接続する場合は、Virtual IP アドレスを入力します。

VIDEO 設定

VIDEO MODE

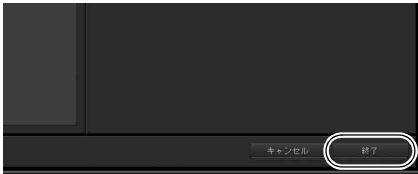
伝送する映像の画質を選択します。

AUDIO MODE

伝送する映像の音質を選択します。

7 複数の設定を作成したいときは （アクション追加）をクリックし、手順6を繰り返す。

設定は回線ごとに10個まで作成できます。

8 設定が終了したら、画面右下の［終了］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

9 ［はい］をクリックする。

設定が保存されます。
USBメモリーに送信側の設定ファイルが作成されます。
続いて、設定ファイルを送信側の機器にインポートします。

設定ファイルを送信側にインポートする

受信側の電源を切ってからUSBメモリーを取りはずし、送信側に接続して設定ファイルをインポートします。

1 受信側の電源を切り、USBメモリーを取りはずす。

2 送信側の左側面にある電源（⏻）ボタンを押して電源を入れ、USB 端子に USB メモリーを接続する。

初回起動時は、電源（⏻）ボタンを押すと、手順 5 の画面が表示されます。
すでに設定がある場合は、手順 3 の画面が表示されます。

3 MENU ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

```
Tx[-|-]
-------- Menu -------
> 1:MIC Boost
  2:MIC Level
```

4 ⊕ボタンを押して［4：Option］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Tx[-|-]
------- Menu -------
  3:Headphone Volume
> 4:Option
```

メモ

ネットワークに接続されている場合は、以下の画面が表示されます。［1：OK］を選択し、ENTER ボタンを押して、いったんネットワークを切断してください。

```
Tx[N|-]FOMA1
#Disconnect Network?
  1:OK
> 2:Cancel
```

オプションメニュー画面が表示されます。

5 ［1：Conf. Import］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
------ Option ------
> 1:Conf. Import
  2:Conf. Export
  3:Version
```

次の画面が表示されます。

6 インポートする設定ファイルを選択し、ENTER ボタンを押す。

```
#Conf. Import
> 1:Tx1
  2:Cancel
```

メモ

USB メモリーに複数の設定が登録されている場合は、次のように複数の設定がトランスミッター名またはレシーバー名で表示されます。

```
#Conf. Import
> 1:Tx1
  2:Tx2
  3:Rx1
```

確認メッセージが表示されます。

7 ［1：OK］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
#Conf. Import
Import [Tx1]?
> 1:OK
  2:Cancel
```

設定ファイルがインポートされます。インポート中に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。
インポートが完了すると、次の画面が表示されます。

```
#Conf. Import
Import Completed
> 1:OK
```

8 ENTER ボタンを押す。

オプションメニュー画面が表示されます。

9 USB メモリーを取りはずす。

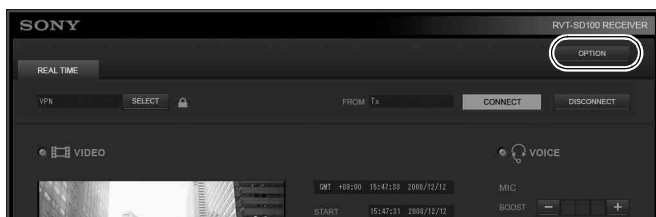
以上で送信側（トランスミッター（Tx））の事前設定は終了です。

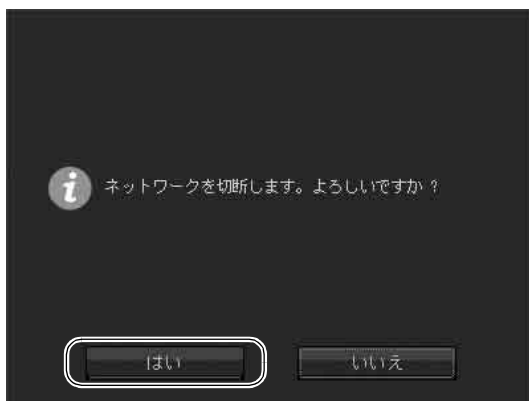
メモ

設定変更については、「設定を変更するには」（51 ページ）をご覧ください。

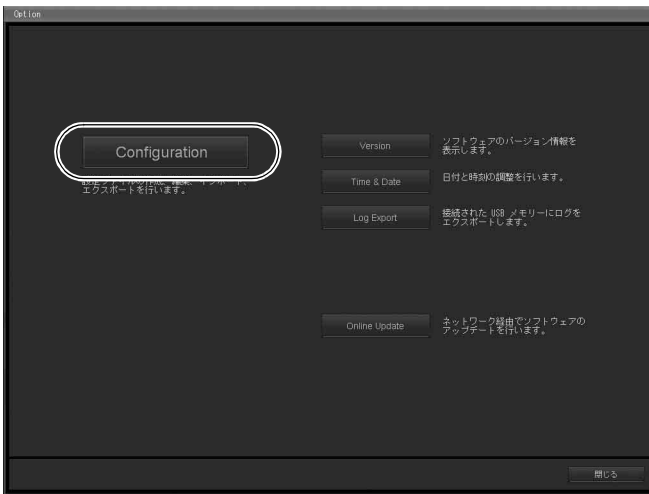
設定を変更するには

受信側の設定を変更する

1 受信側の画面で、［OPTION］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

2 ［はい］をクリックする。

ネットワークが切断され、「Option」画面が表示されます。

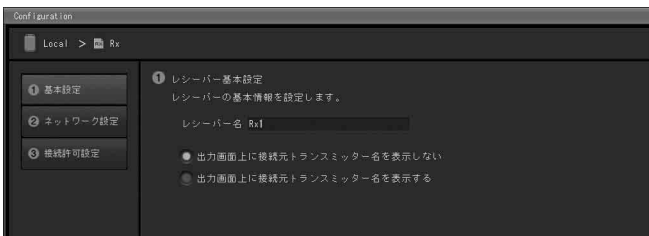
事前設定

3 ［Configuration］をクリックする。

設定ツールが起動します。

4 ［Local］の下にある Rx（受信側）の設定をクリックし、（編集）をクリックする。

受信側（Rx）用の設定画面が表示されます。

5 必要な項目の設定を変更する。

各項目の詳細については、「Step 6 受信側の事前設定を行う」（33 ページ）をご覧ください。

送信側の設定を変更する

設定の変更を行うには、以下の方法があります。

- 送信側の機器にキーボード、マウス、PC モニターを接続し、設定ツールを使って直接変更する。
- USB メモリーに設定ファイルをエクスポートし、受信側の機器で変更する。

ここでは例として、USB メモリーに設定ファイルをエクスポートし、受信側の機器で変更する手順を説明します。

1 送信側の設定ファイルを USB メモリーにエクスポートする。

操作方法については、「設定ファイルをエクスポートする」（91 ページ）をご覧ください。

2 送信側の電源を切り、USB メモリーを取りはずす。

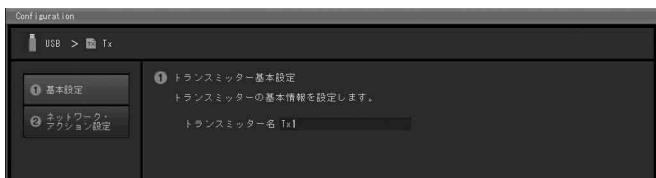
3 取りはずした USB メモリーを受信側の左側面にある USB 端子に接続する。

4 受信側の機器で設定ツールを起動する。

5 ［USB］の下にある Tx（送信側）の設定をクリックし、（編集）をクリックする。

送信側（Tx）用の設定画面が表示されます。

6 必要な項目を設定しなおす。

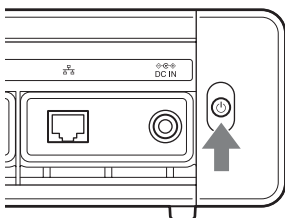
各項目の詳細については、「Step 7 送信側の事前設定を行う」（43 ページ）をご覧ください。

7 設定が終わったら、受信側の電源を切り、USB メモリーを取りはずす。

8 取りはずした USB メモリーを送信側の機器に接続し､設定ファイルをインポートする。

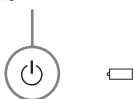
操作方法は､「設定ファイルを送信側にインポートする」（48 ページ）をご覧ください。

操作

電源を入れる／切る

本機の左側面にある電源（⏻）ボタンを 2 秒間押すと、電源が入ります。

ご注意

6 秒以上電源ボタンを押したままにすると、電源が切れてしまいます。電源ランプが点灯したら、ボタンから指を離してください。

電源が入ると、前面の ⏻ 電源ランプが緑色に点灯し、起動処理が始まります。

本機が起動すると、ネットワークへの接続が開始されます。
この後は送信側と受信側によって異なります。「リアルタイム映像伝送の操作」（57ページ）をご覧ください。

電源を切るには

起動中に電源（⏻）ボタンを2秒間押す。
シャットダウン処理が始まり、次のメッセージが点滅表示します。

しばらくすると電源が切れます。

ご注意

メッセージが点滅表示されたら、ボタンから指を離してください。
この操作を行っても電源が切れない場合は、本機の電源ボタンを6秒以上押して電源を切ってください。ただし、この方法で電源を切ると、本機の故障の原因となったり、設定ファイルが使えなくなることがあります。

リアルタイム映像伝送の操作

リアルタイム映像を伝送するには、以下の流れで行います。

Step 1 受信側を起動する（57 ページ）

↓

Step 2 送信側を起動して受信側に接続する（58 ページ）

↓

Step 3 リアルタイム映像を伝送する（60 ページ）

操作

Step 1 受信側を起動する

1 受信側（レシーバー（Rx））の電源を入れる。

起動すると、ネットワークへの接続が開始されます。
ネットワークの接続設定が2つ以上ある場合は、ネットワークを選択する画面が表示されます。

2 接続するネットワークを選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Rx[-|-]
#Select Network
> 1:LAN1
  2:FTTH1
```

メモ

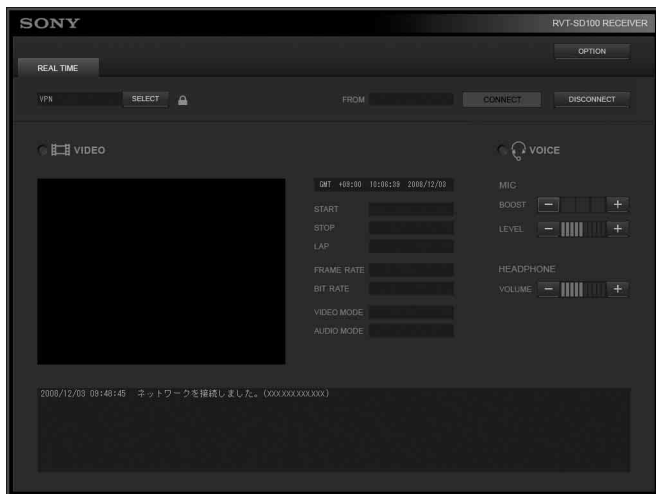
2回目以降は、前回接続したネットワークが選択された状態で表示されます。

ネットワークへの接続が開始されます。接続中は N が点滅表示します。

```
Rx[N|-]LAN1
#Network Connecting
Please Wait...
> 1:Cancel
```

ネットワークに接続されると、次の画面が表示されます。

```
Rx[N|-]LAN1
#Network Connected
Session Waiting...
```

PC モニターに次の画面が表示されます。

続いて、送信側を起動します。

Step 2 送信側を起動して受信側に接続する

1 送信側（トランスミッター（Tx））の電源を入れる。

起動すると、ネットワークへの接続が開始されます。
ネットワークの接続設定が 2 つ以上ある場合は、ネットワークを選択する画面が表示されます。

2 接続するネットワークを選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Tx[-|-]
#Select Network
> 1:FOMA1
  2:LAN1
```

操作

メモ

2 回目以降は、前回接続したネットワークが選択された状態で表示されます。

ネットワークへの接続が開始されます。
接続中は N が点滅表示します。

```
Tx[N|-]FOMA1
#Network Connecting
Please Wait...
> 1:Cancel
```

ネットワークに接続されます。
アクションの設定が 2 つ以上ある場合は、アクションを選択する画面が表示されます。

3 アクションを選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Tx[N|-]FOMA1
#Select Action
> 1:Rx1l352l32k
  2:Rx2l352l32k
```

受信側に接続を要求します。
接続中は S が点滅表示します。

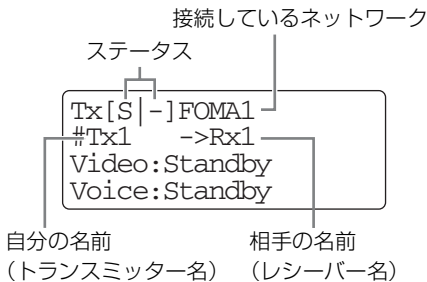
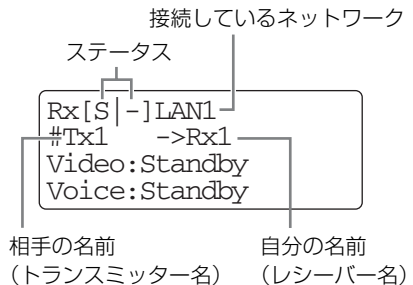
```
Tx[S|-]FOMA1
#Session Connecting
Please Wait...
> 1:Cancel
```

受信側との通信が確立すると、次の画面が表示され、送信側、受信側ともスタンバイの状態となります。

送信側スタンバイ

接続しているネットワーク
ステータス

```
Tx[S|-]FOMA1
#Tx1    ->Rx1
Video:Standby
Voice:Standby
```

自分の名前
（トランスミッター名）
相手の名前
（レシーバー名）

受信側スタンバイ

ステータスの見かた

回線状況を表示します。

自分の回線状況 1)

[-|-]

ネットワーク未接続	：–
ネットワーク接続中	：N（点滅）
ネットワーク接続済み	：N
セッション接続中（Tx → Rx）	：S（点滅）
セッション接続済み	：S

1）Tx（送信側）で FOMA2 回線使用の場合に、2 回線分の状況を表示します。その場合、左側が Network 1、右側が Network 2 になります。

以上で映像を伝送する準備ができました。

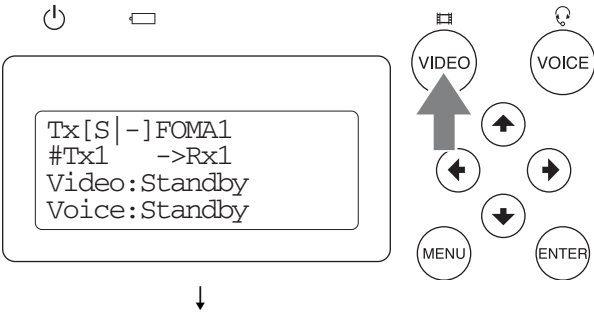
Step 3 リアルタイム映像を伝送する

送信側で VIDEO ボタンを押すと、カメラで撮影しているリアルタイム映像が受信側に伝送されます。

メモ

映像伝送と音声通話は、どちらを先に始めても構いません。また、映像伝送、音声通話とも単独で使用できます。

送信側の操作

↓

```
Tx[S|-]FOMA1
#Tx1    ->Rx1
Video:Starting...
Voice:Standby
```

映像の伝送中は、次の画面が表示され、🎞伝送ランプが緑色に点灯します。

操作

受信側の画面

送信側から映像が伝送されると、PC モニターに受信映像が表示され、VIDEO ランプが青色に点灯します。

映像の受信中は、液晶モニターは次の表示になります。

```
Rx[S|-]LAN1
#Tx1   ->Rx1
Video:Receiving...
Voice:Standby
```

メモ

受信側の画面の各項目については、「受信側画面の詳細」（68 ページ）をご覧ください。

映像伝送を終了するには

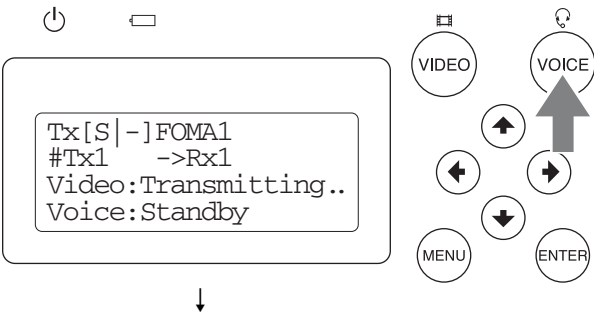
送信側でもう一度 VIDEO ボタンを押すと、映像伝送が終了し、スタンバイ状態に戻ります。

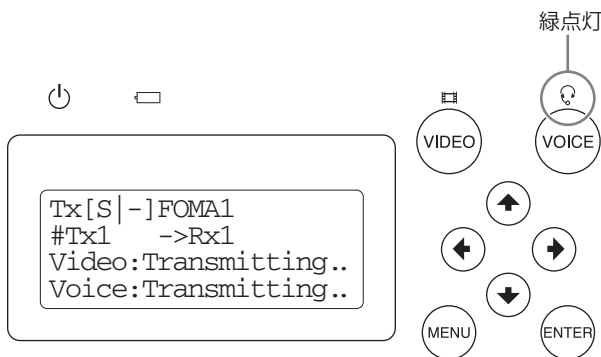
音声通話を開始する

送信側と受信側が通信中であれば、映像伝送に関係なく、受信側のオペレーターとヘッドセットで会話ができます。

メモ

映像伝送と音声通話は、どちらを先に始めても構いません。また、映像伝送、音声通話とも単独で使用できます。

送信側の操作

```
Tx[S|-]FOMA1
#Tx1    ->Rx1
Video:Transmitting..
Voice:Starting...
```

音声通話中は、次の画面が表示され、🎧音声通話ランプが緑色に点灯します。

受信側の画面

音声通話中は、VOICE ランプが青色に点灯します。

操作

音声の受信中は、液晶モニターは次の表示になります。

```
Rx[S|-]LAN1
#Tx1   ->Rx1
Video:Receiving
Voice:Receiving
```

メモ

受信側の画面の各項目については、「受信側画面の詳細」（68 ページ）をご覧ください。

音声通話を終了するには

送信側でもう一度 VOICE ボタンを押すと、音声通話が終了し、スタンバイ状態に戻ります。

マイク、ヘッドホンを調整する

音声通話の音が大きすぎる（小さすぎる）ときや音割れがひどいときは、マイクブーストやマイクレベル、ヘッドホンの音量を調整できます。音声通話しながら調整してください。

受信側で調整する

PC モニターの画面で調整を行います。

各項目の ＋ または － をクリックして調整します。

グレーのインジケーターは現在のレベルを示します

マイクの調整をする場合

マイクブーストとマイクレベルを調整できます。

ヘッドホンの調整をする場合

音量を調整できます。

メモ

- 通話相手の［MIC Level］（マイクレベル）を最大にしても、自分のヘッドホンから聞こえる音が小さすぎるときは、通話相手の［MIC Boost］（マイクブースト）を＋側に調整すると、改善される場合があります。
- 音割れがひどいときは、通話相手の［MIC Boost］（マイクブースト）を－側に調整すると、改善される場合があります。
- 機器側の操作パネルからも調整が行えます。操作方法は「送信側で調整する」（66ページ）をご覧ください。

送信側で調整する

本機前面の操作パネルから調整を行います。

1 MENU ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

```
Tx[S|-]FOMA1
------- Menu -------
> 1:Select Network
  2:Select Action
```

2 ⊕ボタンを押して設定したい項目を選択し、ENTER ボタンを押す。

・マイクブーストを調整したい場合は［3：MIC Boost］を選択します。
・マイクレベルを調整したい場合は［4：MIC Level］を選択します。
・ヘッドホンの音量を調整したい場合は［5：Headphone Volume］を選択します。

```
Tx[S|-]FOMA1
------- Menu -------
> 3:MIC Boost
  4:MIC Level
```

```
Tx[S|-]FOMA1
------- Menu -------
  4:MIC Level
> 5:Headphone Volume
```

選択した項目に応じた設定画面が表示されます。

3 ←または→ボタンを押してレベルを調整し、［1：OK］が選択されている状態でENTERボタンを押す。

設定が保存され、元の画面に戻ります。

[MIC Boost]（マイクブースト）を調整する場合

```
Tx[S|-]FOMA1
#MIC Boost
    0.0dB - ... +
> 1:OK
```

→ / ←

```
Tx[S|-]FOMA1
#MIC Boost
+10.0dB - |.. +
> 1:OK
```

[MIC Level]（マイクレベル）を調整する場合

```
Tx[S|-]FOMA1
#MIC Level
 5 - |||||..... +
> 1:OK
```

```
Tx[S|-]FOMA1
#MIC Level
 6 - ||||||.... +
> 1:OK
```

[Headphone Volume]（ヘッドホン音量）を調整する場合

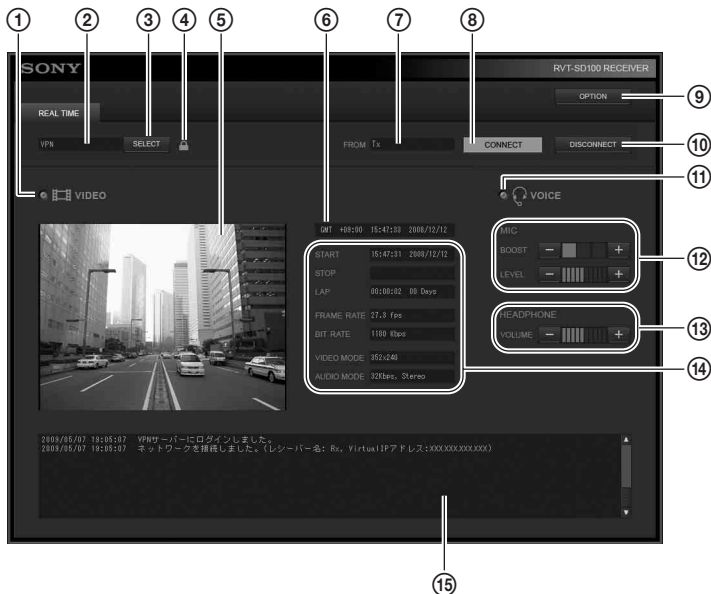
```
Tx[S|-]FOMA1
#Headphone Volume
 5 - |||||..... +
> 1:OK
```

```
Tx[S|-]FOMA1
#Headphone Volume
 6 - ||||||.... +
> 1:OK
```

メモ

- 通話相手の［MIC］の［LEVEL］（マイクレベル）を最大にしても、自分のヘッドホンから聞こえる音が小さすぎるときは、通話相手の［MIC］の［BOOST］（マイクブースト）を＋側に調整すると、改善される場合があります。
- 音割れがひどいときは、通話相手の［MIC］の［BOOST］（マイクブースト）を－側に調整すると、改善される場合があります。

受信側画面の詳細

ここでは、受信側画面の見かたと各項目の使いかたについて説明します。

① VIDEO（映像）ランプ

映像の受信中に青色に点灯します。

② ネットワーク名

現在接続しているネットワークの名前が表示されます。

③ SELECT ボタン

接続するネットワークを切り替えるときに使います。

操作方法は、「ネットワークを切り替える」（71 ページ）をご覧ください。

④ アイコン

VPN 接続中にアンバー色に点灯します。

⑤ 映像表示部

送信側（トランスミッター（Tx））から受信した映像が表示されます。

操作

⑥ 現在時刻表示部

現在の時刻とタイムゾーンが表示されます。
時刻の調整は、「日付と時刻を調整する」（88 ページ）をご覧ください。

⑦ トランスミッター名

通信が確立しているトランスミッターの名前が表示されます。

⑧ CONNECT ランプ

送信側（トランスミッター（Tx））との通信が確立しているときに青色に点灯します。

⑨ OPTION ボタン

設定を変更したり、ログファイルをエクスポートするときに使います。
操作方法は、「オプションメニューの使いかた」（76 ページ）をご覧ください。

⑩ DISCONNECT ボタン

送信側（トランスミッター（Tx））とのセッションを強制的に切断するときに使います。
操作方法は、「セッションを切断する」（74 ページ）をご覧ください。

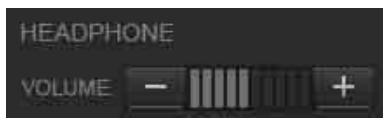
⑪ VOICE（音声通話）ランプ

音声通話中は青色に点灯します。

⑫ MIC（マイク）

ヘッドセットのマイクレベルとマイクブーストを調整します。
音声通話しながら、各項目の ＋ または － をクリックして調整してください。

⑬ HEADPHONE（ヘッドホン）

ヘッドセットのヘッドホンの音量を調整します。
音声通話しながら、＋ または － をクリックして調整してください。

⑭ 映像のステータス表示

⑤ 映像表示部に表示されている映像の受信状況が表示されます。

START
映像受信を開始した時刻が表示されます。

STOP
映像受信を終了した時刻が表示されます。

LAP
映像受信を開始してからの時間が表示されます。

FRAME RATE
フレームレートが表示されます。

BIT RATE
ビットレートが表示されます。

VIDEO MODE
画サイズが表示されます。

AUDIO MODE
音声の転送レートなどが表示されます。

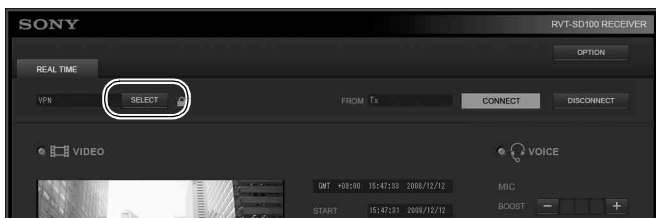
⑮ ログ表示部

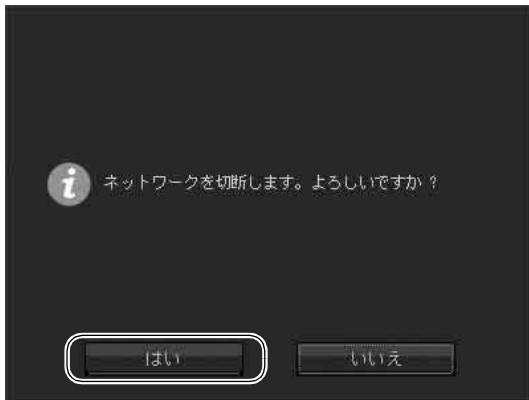
通信の記録や操作の内容などの履歴が表示されます。
VPN 接続している場合は、Virtual IP アドレスが表示されます。

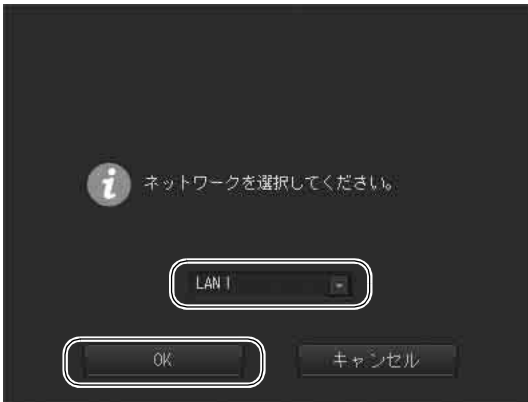
ネットワークを切り替える

現在接続しているネットワークを別のネットワークに切り替えたいときは、以下の操作を行います。

受信側のネットワークを切り替える

1 ［SELECT］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

2 ［はい］をクリックする。

現在接続しているネットワークが切断され、次の画面が表示されます。

3 接続したいネットワークを選択し、［OK］をクリックする。

選択したネットワークに接続されます。

メモ

機器側の操作パネルからも切り替えできます。操作方法は「送信側のネットワークを切り替える」（72 ページ）をご覧ください。

送信側のネットワークを切り替える

本機前面の操作パネルで切り替えを行います。

1 MENU ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

2 ［1：Select Network］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Tx[N|-]FOMA1
-------- Menu --------
> 1:Select Network
  2:MIC Boost
```

確認メッセージが表示されます。

3 ［1：OK］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Tx[N|-]FOMA1
#Disconnect Network?
> 1:OK
  2:Cancel
```

「Select Network」画面が表示されます。

4 接続するネットワークを選択し、ENTER ボタンを押す。

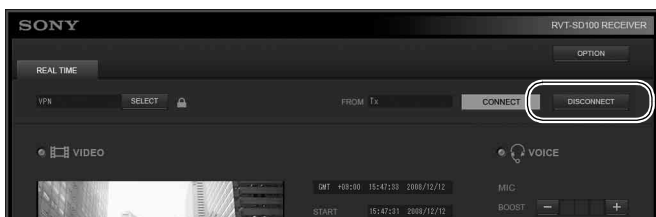
```
Tx[-|-]
#Select Network
> 1:FOMA1
  2:LAN1
```

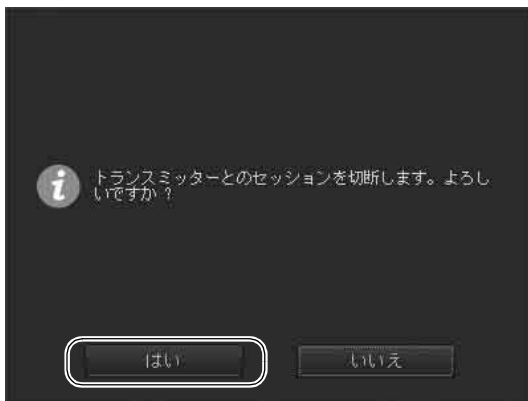
選択したネットワークに接続されます。

セッションを切断する

送信側（トランスミッター（Tx））とのセッションを強制的に切断したいときは、以下の操作を行います。

受信側画面でセッションを切断する

1［DISCONNECT］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

2［はい］をクリックする。

現在接続しているセッションが切断されます。

操作

操作パネルでセッションを切断する

1 MENU ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

2 ［2：Abort Session］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Rx[S|-]LAN1
------- Menu -------
  1:Select Network
> 2:Abort Session
```

確認メッセージが表示されます。

3 ［1：OK］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Rx[S|-]LAN1
#Disconnect Session?
> 1:OK
  2:Cancel
```

セッションが切断されます。

操作

オプションメニューの使いかた

PC 画面のオプションメニューの使いかた

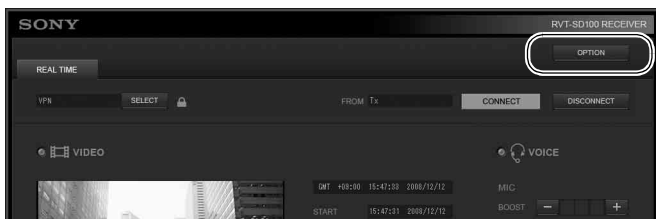
PC 画面のオプションメニューでは、以下の操作や設定が行えます。

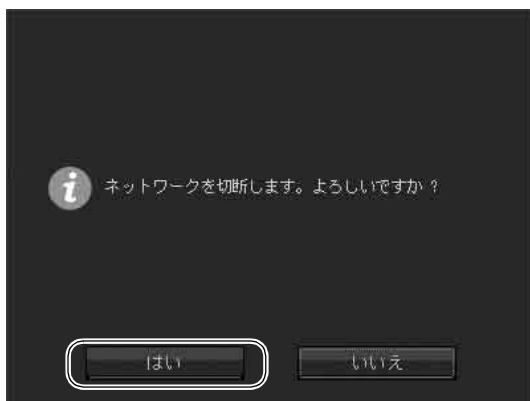
- 設定ツールを使う （78 ページ）
  設定内容の変更や設定ファイルの新規作成、インポート、エクスポートなどが行えます。
- ログファイルをエクスポートする （79 ページ）
  USB メモリーにログファイルをエクスポートできます。
- バージョン情報を確認する （81 ページ）
  本機のソフトウェアのバージョンとシリアル番号、登録キーを確認できます。
- ソフトウェアをアップデートする （83 ページ）
  本機のソフトウェアのアップデートが行えます。
- 日付と時刻を調整する （88 ページ）
  本機の日付と時刻の調整ができます。

メモ

本機の操作パネルでもオプションメニューを操作できます。詳しくは、「操作パネルのオプションメニューの使いかた」（90 ページ）をご覧ください。

オプションメニューを表示する

1 ［OPTION］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

2 ［はい］をクリックする。

ネットワークが切断され、「Option」画面が表示されます。

設定ツールを使う

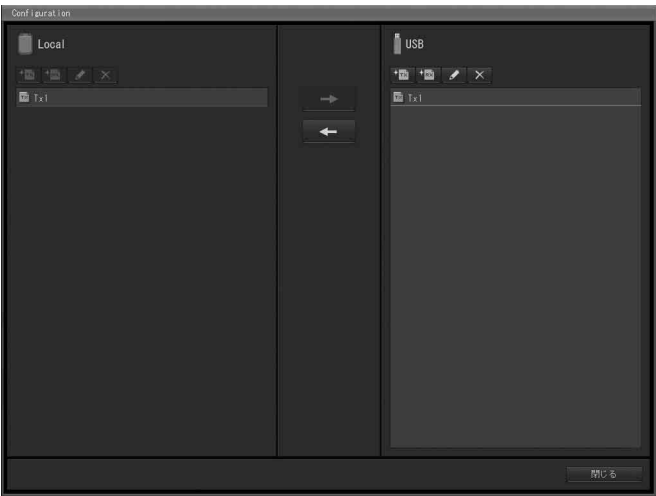
設定内容の変更や設定ファイルの新規作成、インポート、エクスポートなどが行えます。

1 ［Configuration］をクリックする。

設定ツールが起動します。

2 目的の設定を行う。

操作方法については、「Step 6 受信側の事前設定を行う」（33 ページ）、「Step 7 送信側の事前設定を行う」（43 ページ）をご覧ください。

操作

ログファイルをエクスポートする

本機に接続した USB メモリーにログファイルをエクスポートできます。

ご注意

エクスポート中は USB メモリーを抜かないでください。

1 本機の左側面にある USB 端子に USB メモリーを接続する。

2 ［Log Export］をクリックする。

確認メッセージが表示されます。

操作

3 ［はい］をクリックする。

ログファイルが USB メモリーにエクスポートされます。
エクスポートが完了すると、次の画面が表示されます。

4 ［閉じる］をクリックする。

「Option」画面に戻ります。

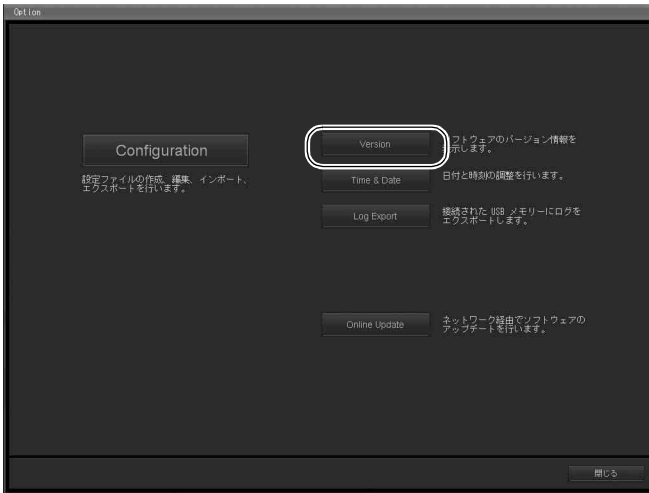
5 本機の電源を切り、USB メモリーを取りはずす。

バージョン情報を確認する

本機のソフトウェアのバージョンやシリアル番号、登録キーを確認できます。

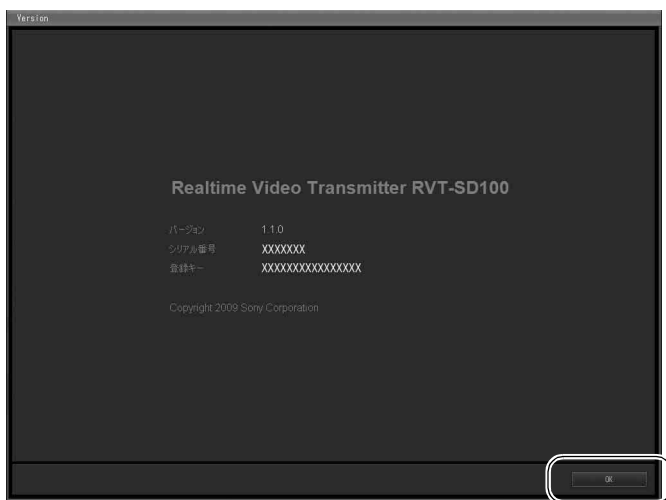
メモ

登録キーは、VPN サービスを申し込むときに必要になります。

1 ［Version］をクリックする。

バージョン情報が表示されます。

2 ［OK］をクリックする。

「Option」画面に戻ります。

操作

ソフトウェアをアップデートする

本機のソフトウェアのアップデートは、ネットワーク経由で行います。

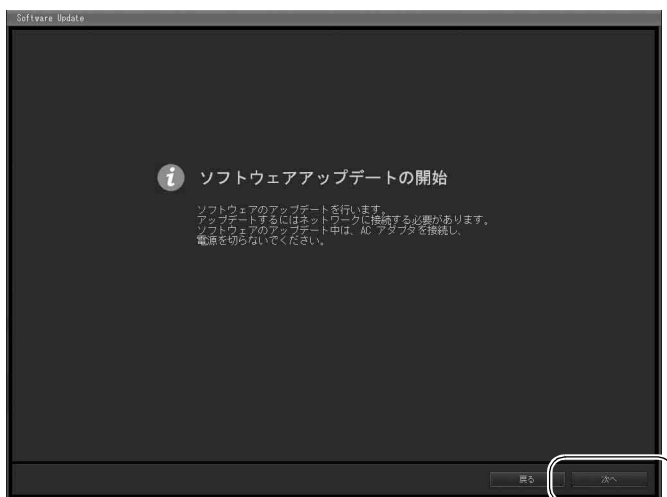
アップデート情報について

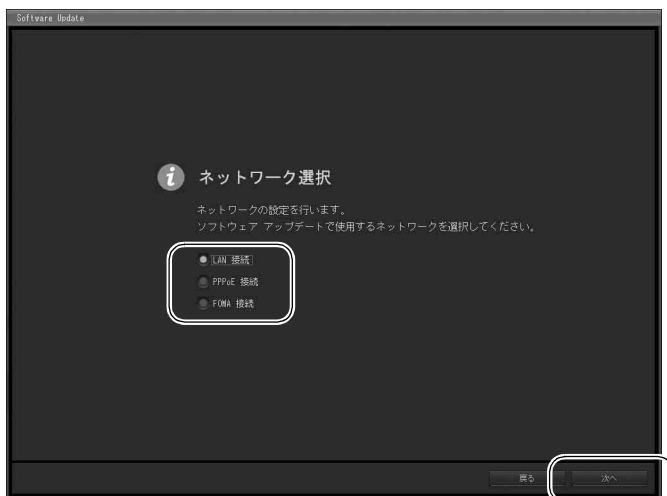
ソフトウェアのアップデートに関する情報は、LocationPorter 製品サイト（http://sony.jp/rvt）でお知らせいたします。

1 ［Online Update］をクリックする。

「ソフトウェアアップデートの開始」画面が表示されます。

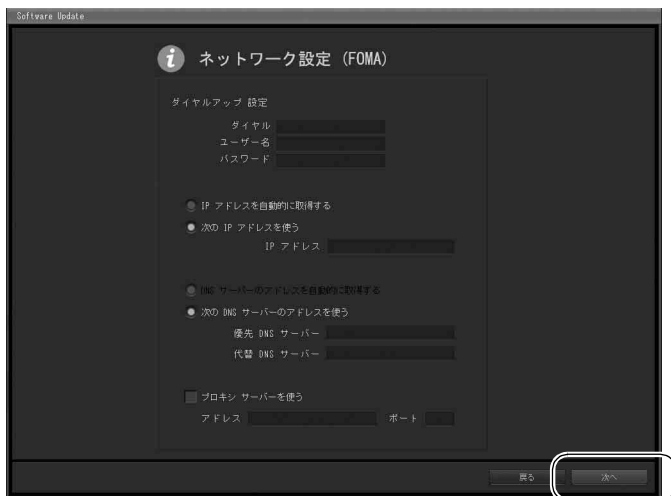
操作

2 記載されている内容をよく読み、[次へ] をクリックする。

「ネットワーク選択」画面が表示されます。

3 接続している回線の種類を選択し、[次へ] をクリックする。

選択した回線に応じた「ネットワーク設定」画面が表示されます。

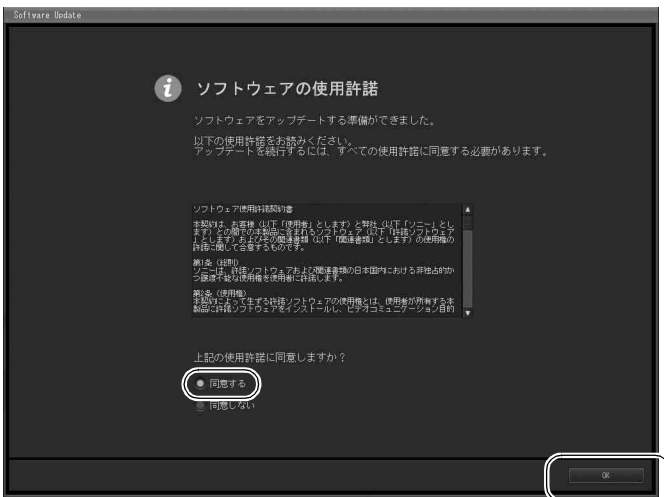
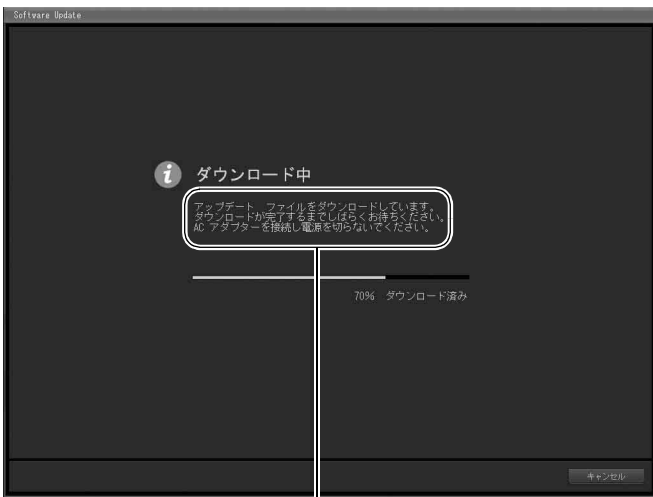
4 各項目を設定し、［次へ］をクリックする。

設定項目の詳細については、「Step 6 受信側の事前設定を行う」の手順6（37 ページ）をご覧ください。

例）FOMA 回線の場合

「最新バージョンの確認」画面が表示されます。

最新バージョンを確認しています。しばらくお待ちください。
AC アダプターを接続し電源を切らないでください。

「ソフトウェアの使用許諾」画面が表示されます。

5 記載されている内容をよく読み、［同意する］を選択し、［OK］をクリックする

アップデートファイルのダウンロードが開始されます。

アップデートファイルをダウンロードしています。
ダウンロードが完了するまでしばらくお待ちください。
AC アダプターを接続し電源を切らないでください。

ダウンロードが終わると、アップデートが開始されます。
アップデート中は次のメッセージが表示されます。しばらくお待ちください。

操作

ご注意

アップデート中は電源を切らないでください。

ソフトウェアのアップデートを実行しています。
しばらくお待ちください。
アップデート中は何度か再起動する事があります。
AC アダプターを接続し電源を切らないでください。

アップデートが完了すると、次の画面が表示されます。

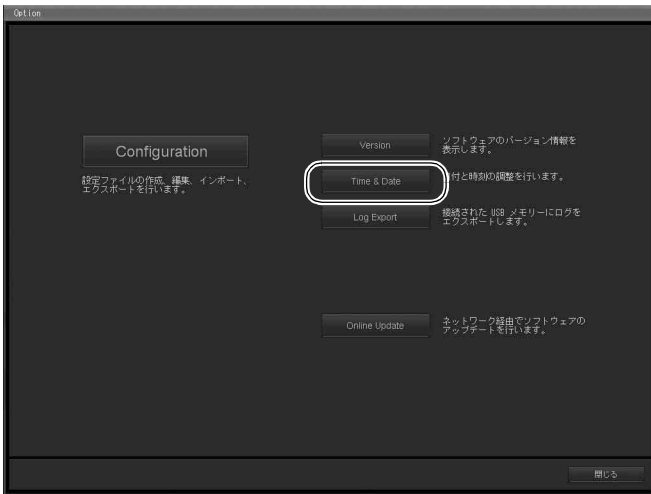
ソフトウェアが最新の状態に更新されました。
再起動ボタンを押してください。

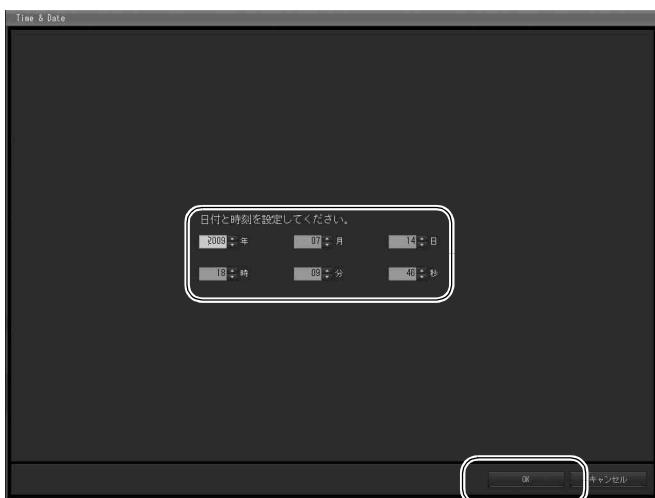
6 画面右下の［再起動］をクリックする。

以上でソフトウェアのアップデートは完了です。

日付と時刻を調整する

本機の日付と時刻の調整ができます。

1 ［Time & Date］をクリックする。

［Time & Date］画面が表示されます。

2 日付と時刻を設定し、[OK] をクリックする。

メモ

設定中、本機の液晶ディスプレイは次の表示になります。

```
#Time & Date
Now Adjusting
```

設定した日付と時刻が本機に反映され、「Option」画面に戻ります。

操作

操作パネルのオプションメニューの使いかた

本体操作パネルのオプションメニューでは、以下の操作や設定が行えます。

- 設定ファイルをインポートする
  USB メモリーを使って、設定ファイルを本機にインポートできます。
  操作方法については、「設定ファイルを送信側にインポートする」（48 ページ）をご覧ください。
- 設定ファイルをエクスポートする （91 ページ）
  USB メモリーに設定ファイルをエクスポートできます。
- バージョン情報を確認する （92 ページ）
  本機のソフトウェアのバージョンとシリアル番号、登録キーを確認できます。
- ログファイルをエクスポートする （92 ページ）
  USB メモリーにログファイルをエクスポートできます。

操作

オプションメニューを表示する

1 MENU ボタンを押す。

ネットワーク未接続状態では、次のメニュー画面が表示されます。

```
Tx[-|-]
------- Menu -------
> 1:MIC Boost
  2:MIC Level
```

2 ［4：Option］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
Tx[-|-]
------- Menu -------
  3:Headphone Volume
> 4:Option
```

オプションメニューが表示されます。

```
------ Option ------
> 1:Conf. Import
  2:Conf. Export
  3:Version
```

設定ファイルをエクスポートする

USB メモリーに設定ファイルをエクスポートできます。

ご注意

エクスポート中は USB メモリーを抜かないでください。

1 本機の左側面にある USB 端子に USB メモリーを接続する。

2 ［2：Conf. Export］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
------ Option ------
  1:Conf. Import
> 2:Conf. Export
  3:Version
```

「Conf. Export」画面が表示されます。

3 ［OK］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
#Conf. Export
Export [Tx1]?
> 1:OK
  2:Cancel
```

メモ

USB メモリーに同じ名前の設定が登録されている場合は、以下の確認画面が表示されます。設定を上書きする場合は［OK］を選択し、ENTER ボタンを押してください。

```
#Conf. Export
Replace [Tx1]?
> 1:OK
  2:Cancel
```

設定ファイルが USB メモリーにエクスポートされます。
エクスポートが完了すると、次の画面が表示されます。

4 ［OK］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
#Conf. Export
Export Completed
> 1:OK
```

元の画面に戻ります。

5 本機の電源を切り、USB メモリーを取りはずす。

バージョン情報を確認する

本機のソフトウェアのバージョンやシリアル番号、登録キーを確認できます。

メモ

登録キーは、VPN サービスを申し込むときに必要になります。

1 ［3：Version］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
------ Option ------
  1:Conf. Import
  2:Conf. Export
> 3:Version
```

「Version」画面が表示されます。

2 ［OK］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
#Version 1.1.0
S/N XXXXXXX
Key XXXXXXXXXXXXXXXX
> 1:OK
```

元の画面に戻ります。

ログファイルをエクスポートする

USB メモリーにログファイルをエクスポートできます。

ご注意

エクスポート中は USB メモリーを抜かないでください。

1 本機の左側面にある USB 端子に USB メモリーを接続する。

2 ［4：Log Export］を選択し、ENTER ボタンを押す。

```
------ Option ------
  2:Conf. Export
  3:Version
> 4:Log Export
```

「Log Export」画面が表示されます。

3 ［OK］を選択し、ENTERボタンを押す。

```
#Log Export
Export Logs?
> 1:OK
  2:Cancel
```

ログファイルがUSBメモリーにエクスポートされます。
エクスポートが完了すると、次の画面が表示されます。

4 ［OK］を選択し、ENTERボタンを押す。

```
#Log Export
Export Completed
> 1:OK
```

メモ

USBメモリーにログファイルが存在している場合でも、上書きされずに常に新しいログファイルが作成されます。

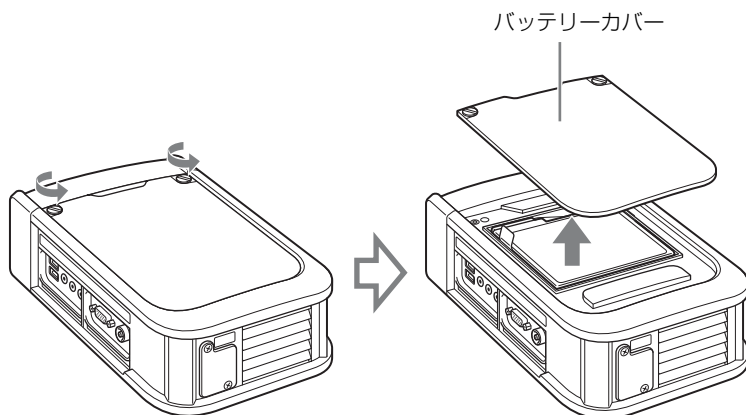
元の画面に戻ります。

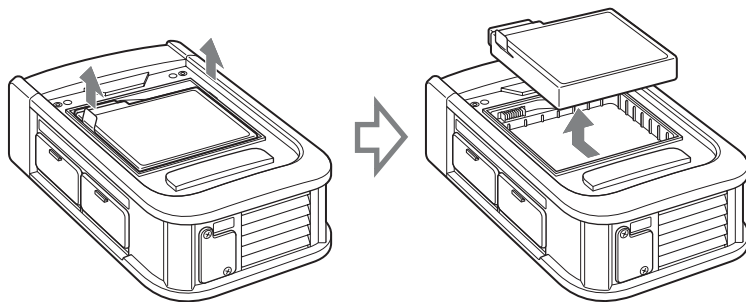
5 本機の電源を切り、USBメモリーを取りはずす。

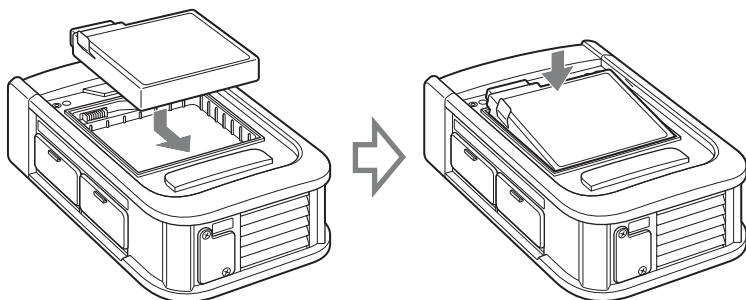
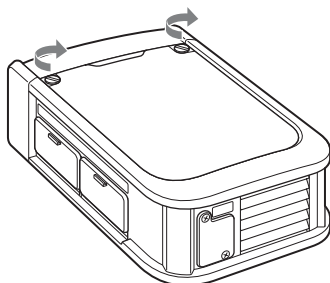
その他

内蔵バッテリー（別売り）を交換する

1 バッテリーカバーを取りはずす。

コインなどを使ってネジをゆるめ、バッテリーカバーを取りはずします。

2 タブを持って内蔵バッテリーを取りはずす。

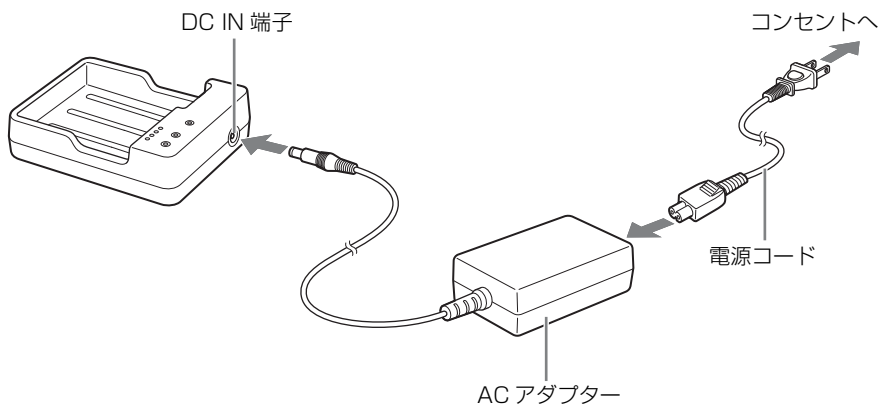
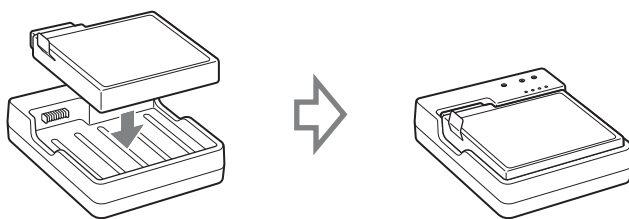
その他

3 新しい内蔵バッテリーをセットする。

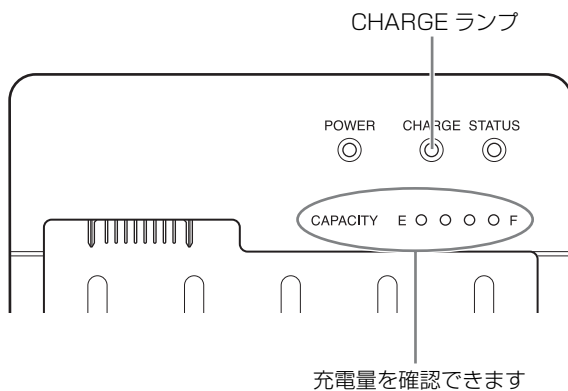
本体のへこみに合わせて内蔵バッテリーを上から入れ、図のように押し込みます。

4 バッテリーカバーを元に戻す。

注意

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。
必ず指定の電池に交換してください。
使用済みの電池は、国または地域の法令に従って処理してください。

バッテリーチャージャー（別売り）の使いかた

バッテリーチャージャー RVTA-BC100 の取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 DC IN 端子に付属の AC アダプターを接続し、電源コードをコンセントに接続する。

2 内蔵バッテリーをバッテリーチャージャーにセットする。

充電が始まると、CHARGE ランプがアンバー色に点灯します。
充電量は CAPACITY ランプで確認できます。
充電が終了すると、CHARGE ランプが緑色に変わります。

その他

故障かな？と思ったら

まず初めに、下記の項目をもう1度チェックしてみてください。それでも解決しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

一般的なトラブル

症状	原因／対策
電源が入らない。（⏻ 電源ランプ（緑色）がつかないとき）	• 内蔵バッテリーが正しく装着されているか確認してください（内蔵バッテリー使用時）。（22 ページ） • 本機と AC アダプター、AC アダプターと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりと接続されているか確認してください。（32 ページ） • 通常の操作で電源を切らなかった場合、電源を制御しているコントローラーが停止している可能性があります。AC アダプターと内蔵バッテリーを取りはずし、1 分ほど待ってから取り付けなおして、再度電源を入れてください。 • 寒い戸外から暖かい屋内に持ち込んだり、湿度の高い場所で使用した場合は、本機内部に結露が生じている可能性があります。その場合は、1 時間ほど待ってから電源を入れなおしてください。湿度の高い場所（85％以上）でのご使用は、本機の故障の原因となりますのでおやめください。 • 上記の操作を行っても本機が起動しない場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
電源が入らない、または ⏻ 電源ボタンが効かない。（ バッテリーランプが高速で点滅している）	• 内蔵バッテリーが正しく装着されていない可能性があります。いったん内蔵バッテリーを取りはずしてから、再度正しく装着しなおしてください。（22 ページ） • 上記の操作を行っても電源が入らない、または電源ボタンが効かない場合は、装着されている内蔵バッテリーは本機では使用できません。 内蔵バッテリーを取りはずしてください。

症状	原因／対策
電源を入れると ⏻ 電源ランプ（緑色）は点灯するが、何も表示されない。	• しばらく様子を見ても液晶ディスプレイに何も表示されないときは、次の手順で操作してください。 ① ⏻ 電源ボタンを 2 秒以上押して、⏻ 電源ランプが消灯したのを確認してから、再度電源を入れなおす。 ② 上記の操作を行っても何も表示されない場合は、⏻ 電源ボタンを 6 秒以上押したままにし、⏻ 電源ランプが消灯したのを確認してから、AC アダプターと内蔵バッテリーを取りはずす。その後 1 分ほど待ってから取り付けなおし、再度電源を入れなおす。 • 寒い戸外から暖かい屋内に持ち込んだり、湿度の高い場所で使用した場合は、本機内部に結露が生じている可能性があります。その場合は、1 時間ほど待ってから電源を入れなおしてください。湿度の高い場所（85％以上）でのご使用は、本機の故障の原因となりますのでおやめください。
音声通話の音が小さい、または大きすぎる	• 音声通話をしながら、送信側と受信側でマイクブースト、マイクレベル、ヘッドホンの音量を調整してください。（65 ページ） • マイクブーストを設定しても音が大きくならない場合は、プラグインパワー方式に対応したマイクをご使用ください。

送信側（トランスミッター（Tx））のトラブル

症状	原因／対策
FOMA 回線に接続できない	• FOMA がきちんと接続されているか確認してください。 • FOMA 回線の接続設定が正しいか確認してください。（43 ページ）
ネットワークに接続できない	• イーサネットケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 • LAN 回線の接続設定が正しく行われているか確認してください。（43 ページ） • PPPoE の設定が正しく行われているか確認してください。（43 ページ）
VPN サービスを利用してネットワークに接続できない	• VPN サービスのライセンスが有効であることを確認してください。 • 時計を正しく設定してください。（88 ページ） • DNS サーバーを正しく設定してください。（43 ページ）
VPN サービスを利用して映像や音声が送信できない	• VPN サービスの接続許可またはグループの設定が有効であることを確認してください。

受信側（レシーバー（Rx））のトラブル

症状	原因／対策
ネットワークに接続できない	• イーサネットケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 • LAN 回線の接続設定が正しく行われているか確認してください。（33 ページ） • PPPoE の設定が正しく行われているか確認してください。（33 ページ）
画像や音声が受信できない	• 送信側（トランスミッター（Tx））の接続を許可しているか確認してください。（41 ページ）。
FOMA 回線に接続できない	• FOMA がきちんと接続されているか確認してください。 • FOMA 回線の接続設定が正しいか確認してください。（43 ページ）
VPN サービスを利用してネットワークに接続できない	• VPN サービスのライセンスが有効であることを確認してください。 • 時計を正しく設定してください。（88 ページ） • DNS サーバーを正しく設定してください。（33 ページ）
VPN サービスを利用して映像や音声が受信できない	• VPN サービスの接続許可またはグループの設定が有効であることを確認してください。

オンラインアップデートのトラブル

症状	原因／対策
FOMA 回線に接続できない	• FOMA がきちんと接続されているか確認してください。 • FOMA 回線の接続設定が正しいか確認してください。（43 ページ）
ネットワークに接続できない	• イーサネットケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 • LAN 回線の接続設定が正しく行われているか確認してください。（43 ページ） • PPPoE の設定が正しく行われているか確認してください。（43 ページ）
ダウンロードに失敗する	• 時計を正しく設定してください。（88 ページ） • DNS サーバーを正しく設定してください。（83 ページ）

液晶ディスプレイの表示一覧

液晶ディスプレイに表示されるメッセージには、起動時やメニュー選択時に表示される通常のメッセージと、トラブルが発生したときに表示されるエラーメッセージがあります。

通常のメッセージ

■ 送信側（トランスミッター（Tx））、受信側（レシーバー（Rx））共通

表示されるメッセージ	内容
Welcome!! Please wait... Loading...	本機の起動中に表示されます。
Good bye!!	本機のシャットダウン中に表示されます。
------ Option ------ > 1:Conf. Import 2:Conf. Export 3:Version ------ Option ------ > 4:Log Export 5:Cancel	オプションメニューの項目です。項目を選択し、ENTER ボタンを押すと、項目に応じた操作が行えます。

その他

■ 送信側（トランスミッター（Tx））

表示されるメッセージ	内容
Tx[-|-] #Initializing Please Wait...	起動準備中に表示されます。
Tx[-|-] #Select Network > 1:FOMA1 2:LAN1	接続するネットワークを選択します。
Tx[N|-]FOMA1 #Network Connecting Please Wait… > 1:Cancel	ネットワークへの接続中に表示されます。
Tx[N|-]FOMA1 #Select Action > 1:Rx11352132k 2:Rx21352132k	アクションを選択します。
Tx[S|-]FOMA1 #Session Connecting Please Wait… > 1:Cancel	受信側に接続を要求しているときに表示されます。
Tx[S|-]FOMA1 #Tx1 ->Rx1 Video:Standby Voice:Standby	スタンバイ中の表示です。
Tx[S|-]FOMA1 #Tx1 ->Rx1 Video:Starting... Voice:Standby	VIDEO ボタンを押したあと、映像伝送が開始されるまでの間表示されます。
Tx[S|-]FOMA1 #Tx1 ->Rx1 Video:Standby Voice:Starting...	VOICE ボタンを押したあと、音声通話が開始されるまでの間表示されます。
Tx[S|-]FOMA1 #Tx1 ->Rx1 Video:Transmitting.. Voice:Standby	映像伝送中の表示です。
Tx[S|-]FOMA1 #Tx1 ->Rx1 Video:Standby Voice:Transmitting..	音声通話中の表示です。

表示されるメッセージ	内容
Tx[S|-]FOMA1 #Tx1 ->Rx1 Video:Transmitting.. Voice:Transmitting..	映像伝送と音声通話中の表示です。
Tx[N|-]FOMA1 #Session Aborted From Rx1 > 1:OK	受信側から接続を切断されたときに表示されます。[1：OK］を選択し、ENTER ボタンを押すと、アクションを選択する画面が表示されます。
Tx[N|-]FOMA1 ------- Menu ------- > 1:Select Network 2:MIC Boost Tx[N|-]FOMA1 ------- Menu ------- > 3:MIC Level 4:Headphone Volume Tx[N|-]FOMA1 ------- Menu ------- 4:Headphone Volume > 5:Option	ネットワーク接続中に MENU ボタンを押すと表示されるメニューの項目です。項目を選択し、ENTER ボタンを押すと、項目に応じた操作や設定が行えます。
Tx[S|-]FOMA1 ------- Menu ------- > 1:Select Network 2:Select Action Tx[S|-]FOMA1 ------- Menu ------- > 3:MIC Boost 4:MIC Level Tx[S|-]FOMA1 ------- Menu ------- 5:Headphone Volume > 6:Option	セッション接続中に MENU ボタンを押すと表示されるメニューの項目です。項目を選択し、ENTER ボタンを押すと、項目に応じた操作や設定が行えます。

■ 受信側（レシーバー（Rx））

<table>
<tr><th>表示されるメッセージ</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>Rx[-|-]
#Initializing
Please Wait...</td><td>起動準備中に表示されます。</td></tr>
<tr><td>Rx[-|-]
#Select Network
> 1:LAN1
  2:LAN2</td><td>接続するネットワークを選択します。</td></tr>
<tr><td>Rx[N|-]LAN1
#Network Connecting
Please Wait...
> 1:Cancel</td><td>ネットワークへの接続中に表示されます。</td></tr>
<tr><td>Rx[N|-]LAN1
#Network Connected
Session Waiting...</td><td>ネットワークへの接続が確立すると表示されます。</td></tr>
<tr><td>Rx[S|-]LAN1
#Tx1   ->Rx1
Video:Standby
Voice:Standby</td><td>スタンバイ中の表示です。</td></tr>
<tr><td>Rx[S|-]LAN1
#Tx1   ->Rx1
Video:Receiving...
Voice:Standby</td><td>映像受信中の表示です。</td></tr>
<tr><td>Rx[-|-]LAN1
Tx1   ->Rx1
Video:Standby
Voice:Receiving...</td><td>音声通話中の表示です。</td></tr>
<tr><td>Rx[S|-]LAN1
#Tx1   ->Rx1
Video:Receiving...
Voice:Receiving...</td><td>映像受信と音声通話中の表示です。</td></tr>
<tr><td>Rx[N|-]LAN1
------- Menu -------
> 1:Select Network
  2:MIC Boost

Rx[N|-]LAN1
------- Menu -------
> 3:MIC Level
  4:Headphone Volume

Rx[N|-]LAN1
------- Menu -------
  4:Headphone Volume
> 5:Option</td><td>ネットワーク接続中にMENUボタンを押すと表示されるメニューの項目です。項目を選択し、ENTERボタンを押すと、項目に応じた操作や設定が行えます。</td></tr>
</table>

表示されるメッセージ	内容

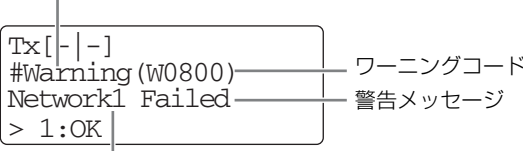
Rx[S|-]LAN1
-------- Menu --------
> 1:Select Network
  2:Abort Session
 	
Rx[S|-]LAN1
-------- Menu --------
> 3:MIC Boost
  4:MIC Level
 	
Rx[S|-]LAN1
-------- Menu --------
  4:Headphone Volume
> 5:Option
	セッション接続中にMENUボタンを押すと表示されるメニューの項目です。項目を選択し、ENTERボタンを押すと、項目に応じた操作や設定が行えます。

エラーメッセージ、警告メッセージ

本機の動作中に何らかの問題が発生すると、メッセージが表示されます。お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせいただくときは、表示されているエラーコードまたはワーニングコードをお伝えください。

本機の液晶ディスプレイに表示されるメッセージ

メッセージの見かた

例）エラーメッセージ

例）警告メッセージ

■ エラーメッセージ

エラーコード	エラーメッセージ	内容
E0100	Network Failed	何らかの原因でネットワーク接続に失敗しました。
E0101	Network Failed	モデムが未接続のため、ネットワークに接続できませんでした。
E0102	Network Failed	イーサネットケーブルが未接続のため、ネットワークに接続できませんでした。
E0103	Network Failed	ネットワーク接続時、タイムアウトが発生しました。
E0104	Network Failed	接続中のネットワークを指定して接続しようとしました。
E0105	Network Failed	切断済みのネットワークを指定して切断しようとしました。
E0106	Network Failed	ネットワークの設定が正しくないため、指定したネットワークに接続できませんでした。
E0107	Network Failed	接続試行中のネットワークを指定して接続しようとしました。
E0108	Network Failed	切断試行中のネットワークを指定して切断しようとしました。
E0109	Network Failed	ネットワーク接続が確立しているネットワークに対して、再度接続しようとしました。
E0110	Network Failed	指定したネットワークが見つかりませんでした。
E0111	Network Failed	IP アドレスの設定に失敗しました。
E0114	Network Failed	ネットワークアダプターに異常が発生しました。
E0115	Network Failed	ネットワークの接続時、ハードウェアにエラーが発生しました。
E0116	Network Failed	ネットワーク回線が混み合っているため接続できませんでした。
E0117	Network Failed	VPN ライセンスが登録されていないか、VPN ライセンスが切れています。
E0118	Network Failed	VPN サーバーでエラーが発生しました。
E0119	Network Failed	VPN クライアントの起動に失敗しました。
E0120	Network Failed	VPN ネットワークアダプターの処理に失敗しました。
E0121	Network Failed	指定した VPN ネットワークの設定が正しくないため、指定したネットワークに接続できませんでした。

エラーコード	エラーメッセージ	内容
E0122	Network Failed	VPN サーバーへのログインに失敗しました。
E0123	Network Failed	SSL 認証に失敗しました。
E0201	Session Failed	セッション接続時、接続相手先がビジーのため接続できませんでした。
E0203	Session Failed	セッション接続時、受信側（レシーバー）から接続を拒否されました。
E0205	Session Failed	セッション接続時、タイムアウトが発生しました。
E0206	Session Failed	セッション接続の認証に失敗しました。
E0207	Session Failed	何らかの原因でセッション接続に失敗しました。
E0209	Session Failed	セッション接続エラー時、セッション接続中にネットワーク断が発生した場合に表示します。
E0210	Session Failed	セッション接続エラー時、セッション接続中にネットワーク未接続だった場合に表示します。
E0211	Session Failed	接続を許可されていない接続先に対して、セッション接続しようとしました。
E0301	Export Failed	ログのエクスポートに失敗しました。
	Export Failed	設定ファイルのエクスポートに失敗しました。
	Import Failed	設定ファイルのインポートに失敗しました。
E0302	USB Not Found	USB メモリーを接続しないで、ログのエクスポート、設定ファイルのエクスポートまたはインポートを行おうとしました。
		設定ファイルのインポート時に USB メモリーが見つかりませんでした。
E0303	Multiple USB Found	複数の USB メモリーが接続されている状態で、ログのエクスポート、設定ファイルのエクスポートまたはインポートを行おうとしました。
E0304	USB Full	USB メモリーの空き容量が不足しているため、ログまたは設定ファイルのエクスポートができませんでした。
E0305	Conf. Not Found	USB メモリー内に設定ファイルがないため、設定ファイルのインポートができませんでした。

エラーコード	エラーメッセージ	内容
E0401	Update Failed Please Turn Off	ソフトウェアのアップデートができませんでした。 電源を切ってください。
E0402		
E0403	No Disk Space Please Turn Off	
E0406	Update Failed Please Turn Off	
E0501	System Not Available	アプリケーションが起動できませんでした。
E9200	Session Failed	セッション接続に失敗しました。
E9202		
E9204		
E9999	Fatal Error Please Turn Off	予期せぬエラーが発生しました。

■ 警告メッセージ

ワーニングコード	エラーメッセージ	内容
W0800	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでネットワーク接続エラーが発生しました。
W0801	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでモデム未接続エラーが発生しました。
W0802	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでLAN 未接続エラーが発生しました、
W0803	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでネットワーク接続時のタイムアウトが発生しました。
W0804	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークですでに接続済みのネットワークに接続しようとしたエラーが発生しました。
W0805	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークですでに切断済みのネットワークを切断しようとしたエラーが発生しました。
W0806	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでネットワークの設定が正しくないため接続できないエラーが発生しました。
W0807	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークで接続試行中のネットワークに接続しようとしたエラーが発生しました。

ワーニングコード	エラーメッセージ	内容
W0808	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークで切断試行中のネットワークを切断しようとしたエラーが発生しました。
W0809	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークですでに接続が確立しているネットワークに再度接続しようとしたエラーが発生しました。
W0810	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークで指定したネットワークが見つからないエラーが発生しました。
W0811	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークで IP アドレスの設定に失敗しました。
W0814	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでネットワークアダプターの異常が発生しました。
W0815	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでハードウェアの異常が発生しました。
W0816	Network1 Failed Network2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のネットワークでネットワーク回線が込み合っているエラーが発生しました。
W0900	Session1 Failed Session2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方の FOMA しかセッション接続に成功しませんでした。
W0901	Session1 Failed Session2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションが使用中のため、要求を受け付けられないエラーが発生しました。
W0903	Session1 Failed Session2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションの接続が拒否されたエラーが発生しました。
W0905	Session1 Failed Session2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションで接続タイムアウトエラーが発生しました。
W0906	Session1 Failed Session2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションで接続要求の認証に失敗したエラーが発生しました。
W0907	Session1 Failed Session2 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションですでに接続済みのセッションに接続しようとしたエラーが発生しました。
W0908	Session1 Canceled Session2 Canceled	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションで接続がキャンセルされたエラーが発生しました。

ワーニングコード	エラーメッセージ	内容
W0909	Session1 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションでセッション接続中にネットワークが切断されたエラーが発生しました。
	Session2 Failed	
W0910	Session1 Failed	FOMA を 2 回線使用時、片方のセッションでセッション接続中にネットワークが未接続だったエラーが発生しました。
	Session2 Failed	

受信側（レシーバー（Rx））の PC モニターに表示されるエラーメッセージ

エラーコード	エラーメッセージ	内容
E0100	選択したネットワークで接続できませんでした。	何らかの原因でネットワーク接続に失敗しました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、何らかの原因でネットワーク接続に失敗しました。
E0102	選択したネットワークで接続できませんでした。	イーサネットケーブルが未接続のため、ネットワークに接続できませんでした。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、イーサネットケーブルが未接続のため、ネットワークに接続できませんでした。
E0103	選択したネットワークで接続できませんでした。	ネットワーク接続時、タイムアウトが発生しました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、タイムアウトが発生しました。
E0104	選択したネットワークで接続できませんでした。	接続中のネットワークを指定して接続しようとしました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、接続中のネットワークを指定して接続しようとしました。

エラーコード	エラーメッセージ	内容
E0105	選択したネットワークで接続できませんでした。	切断済みのネットワークを指定して切断しようとしました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、切断済みのネットワークを指定して切断しようとしました。
E0106	選択したネットワークで接続できませんでした。	ネットワークの設定が正しくないため、指定したネットワークに接続できませんでした。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、ネットワークの設定が正しくないため、指定したネットワークに接続できませんでした。
E0107	選択したネットワークで接続できませんでした。	接続試行中のネットワークを指定して接続しようとしました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、接続試行中のネットワークを指定して接続しようとしました。
E0108	選択したネットワークで接続できませんでした。	切断試行中のネットワークを指定して切断しようとしました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、切断試行中のネットワークを指定して切断しようとしました。
E0109	選択したネットワークで接続できませんでした。	ネットワーク接続が確立しているネットワークに対して、再度接続しようとしました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、ネットワーク接続が確立しているネットワークに対して、再度接続しようとしました。
E0110	選択したネットワークで接続できませんでした。	指定したネットワークが見つかりませんでした。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、指定したネットワークが見つかりませんでした。

エラーコード	エラーメッセージ	内容
E0111	選択したネットワークで接続できませんでした。	IP アドレスの設定に失敗しました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、IP アドレスの設定に失敗しました。
E0114	選択したネットワークで接続できませんでした。	ネットワークアダプターに異常が発生しました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、ネットワークアダプターに異常が発生しました。
E0115	選択したネットワークで接続できませんでした。	ハードウェアに異常が発生しました。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、ハードウェアに異常が発生しました。
E0116	選択したネットワークで接続できませんでした。	ネットワーク回線が込み合っています。
	ネットワーク接続エラー ネットワーク接続に失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、ネットワーク回線が混み合っています。
E0117	選択したネットワークで接続できませんでした。	VPN ライセンスが登録されていないか、VPN ライセンスが切れています。
E0118	選択したネットワークで接続できませんでした。	VPN サーバーでエラーが発生しました。
E0119	選択したネットワークで接続できませんでした。	VPN クライアントの起動に失敗しました。
E0120	選択したネットワークで接続できませんでした。	VPN ネットワークアダプターの処理に失敗しました。
E0121	選択したネットワークで接続できませんでした。	指定した VPN ネットワークの設定が正しくないため、指定したネットワークに接続できませんでした。
E0122	選択したネットワークで接続できませんでした。	VPN サーバーへのログインに失敗しました。
E0123	選択したネットワークで接続できませんでした。	SSL 認証に失敗しました。

<table>
<tr><th>エラーコード</th><th>エラーメッセージ</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>E0301</td><td>ログファイルのエクスポートに失敗しました。</td><td>ログのエクスポートに失敗しました。</td></tr>
<tr><td>E0302</td><td>USB メモリーが接続されていません。
USB メモリーを接続してください。</td><td>USB メモリーを接続しないで、ログのエクスポートを行おうとしました。</td></tr>
<tr><td>E0303</td><td>USB メモリーが 2 つ以上見つかりました。
USB メモリーを 1 つのみ接続してください。</td><td>複数の USB メモリーが接続されている状態で、ログのエクスポート、設定ファイルのエクスポートまたはインポートを行おうとしました。</td></tr>
<tr><td>E0304</td><td>USB メモリーの空き容量が不足しています。
十分な空き容量がある USB メモリーに交換してください。</td><td>USB メモリーの空き容量が不足しているため、ログまたは設定ファイルのエクスポートができませんでした。</td></tr>
<tr><td>E0401</td><td rowspan="2">アップデートに失敗しました。
電源を切ってください。</td><td rowspan="2">ソフトウェアのアップデートができませんでした。
電源を切ってください。</td></tr>
<tr><td>E0402</td></tr>
<tr><td>E0403</td><td>ローカルディスクの空き容量が不足しています。
電源を切ってください。</td><td rowspan="2">ソフトウェアのアップデートができませんでした。
電源を切ってください。</td></tr>
<tr><td>E0406</td><td>アップデートに失敗しました。
電源を切ってください。</td></tr>
<tr><td>E0410</td><td>ダウンロードエラー
アップデートファイルのダウンロードに失敗しました。
ソフトウェアのアップデートを中止します。</td><td>ソフトウェアのオンラインアップデート時、アップデートファイルが正常にダウンロードできませんでした。</td></tr>
<tr><td>E0418</td><td>ダウンロードエラー
アップデートファイルのダウンロードに失敗しました。
ソフトウェアのアップデートを中止します。</td><td>ソフトウェアのオンラインアップデート時、ファイルのダウンロードに失敗しました。</td></tr>
<tr><td>E0419</td><td>ネットワークエラー
ネットワークの異常が発生しました。
ソフトウェアのアップデートを中止します。</td><td>ソフトウェアのオンラインアップデート時、ネットワークに異常が発生しました。</td></tr>
<tr><td>E0420</td><td>ダウンロードエラー
アップデートファイルのダウンロードに失敗しました。
ソフトウェアのアップデートを中止します。</td><td>ソフトウェアのオンラインアップデート時、SSL 認証でエラーが発生しました。</td></tr>
</table>

エラーコード	エラーメッセージ	内容
E0499	ダウンロードエラー アップデートファイルのダウンロードに失敗しました。 ソフトウェアのアップデートを中止します。	ソフトウェアのオンラインアップデート時、想定外のエラーが発生しました。
E0501	System is not available.	アプリケーションが起動できませんでした。
E0550	USB メモリーへの書き込みに失敗しました。	エラーが発生したため、設定ファイルを USB メモリーに作成できませんでした。
E0551	ローカルへの書き込みに失敗しました。	エラーが発生したため、設定ファイルをローカルに作成できませんでした。
E0552	USB メモリーが見つかりませんでした。	USB メモリーが見つからないため、設定ファイルを作成できませんでした。
E9999	予期せぬエラーが発生しました。 電源を切ってください。	予期せぬエラーが発生しました。
	アップデートに失敗しました。 電源を切ってください。	

本機の性能を保持するために

使用・保管場所

次のような場所での使用および保管は避けてください。

- 極端に寒いところや暑いところ（使用温度は 0 ～ 40 °C です。）
- 直射日光が長時間当たるところや暖房器具の近く
- 湿気、ほこりの多いところ
- 激しく振動するところ
- 強い磁気を発生するものの近く
- 強力な電波を発生するテレビ、ラジオの送信所の近く

強い衝撃を与えないでください

落としたりして強い衝撃を与えると故障することがあります。

通風口をふさがないようにしてください

温度上昇を防ぐため、動作中に布などで包まないでください。

お手入れ

キャビネットやパネルの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふきとってください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れをふきとり、乾いた布で仕上げてください。アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤など、揮発性のものをかけると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

輸送のときは

付属のカートン、または同等品で梱包し、急激な衝撃を与えないように注意してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお確かめください。特に、「故障かな？と思ったら」（98 ページ）に該当する項目がないか、お調べください。それでも具合の悪いときはお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

伝送フォーマット

映像	圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC　Main Profile	
	解像度／フレームレート／映像ビットレート	FOMA 1 回線利用時	352 × 240 / 5 − 15 fps / 64 − 160 kbps
		FOMA 2 回線利用時	352 × 240 / 5 − 15 fps / 64 − 320 kbps
		LAN 回線利用時	352 × 240 / 5 − 30 fps / 64 − 1,024 kbps
		PPPoE 利用時	352 × 240 / 5 − 30 fps / 64 − 1,024 kbps
音声	音声圧縮方式	ATRAC3plus	
	音声ビットレート（モード）	FOMA 1 回線利用時	32 kbps（Stereo）、32 kbps（Mono）、16 kbps（Mono）
		FOMA 2 回線利用時	32 kbps（Stereo）、32 kbps（Mono）、16 kbps（Mono）
		LAN 回線利用時	64 kbps（Stereo）、32 kbps（Stereo）、32 kbps（Mono）、16 kbps（Mono）
		PPPoE 利用時	64 kbps（Stereo）、32 kbps（Stereo）、32 kbps（Mono）、16 kbps（Mono）
通話用音声	音声圧縮方式	MPEG-4 HVXC	
	音声ビットレート	2 kbps	

主な仕様

オペレーティングシステム

WindowsXP Embedded

プロセッサー

CPU　Intel® Core™ 2 Duo SL9400

メインメモリー

2 GB

外部コネクター

映像入出力（VIDEO IN/OUT）端子：コンポジット（NTSC、BNC 1 Vp-p 75Ω不平衡 同期負）× 1
音声入出力（AUDIO IN/OUT）：ライン入力／ライン出力（ステレオ、Mini PIN ジャック）× 1
マイク入力（MIC）端子（ヘッドセット用、Mini PIN ジャック）× 1
ヘッドホン（PHONES）端子（ヘッドセット用、Mini PIN ジャック）× 1
USB 端子× 4（うち FOMA 接続用× 2）
LAN 端子（100 BASE-TX/10 BASE-T）（RJ-45）× 1
PC モニター出力端子：アナログ RGB（XGA、ミニ D-SUB 15 ピン）× 1
外部バッテリー端子（DC IN：15 V、XLR 4 PIN）× 1

液晶ディスプレイ

モノクロ、4 行× 20 文字

動作条件

温度　0 ～ 40 ℃
湿度　25 ～ 85％（結露のないこと）

保存条件

温度　－ 20 ～＋ 60 ℃

電源・その他

リアルタイムビデオトランスミッター（RVT-SD100）

一般

電源電圧　AC アダプター DC 15.0 V
内蔵バッテリー DC 11.1 V
外部バッテリー DC 14.4 V
入力電流　最大 4.0 A（AC アダプター使用時）
内蔵バッテリー充電時間
最長 4 時間（電源オフ時）
外形寸法　134（W）× 80（H）× 222（D）mm
質量　約 1.5 kg（内蔵バッテリー装着時）

AC アダプター

電源　AC 100 V、50/60 Hz
入力電流　1.3 A
出力　動作時：DC 15.0 V、4.0 A
動作温度　0 ～ 35 ℃
保存温度　－ 20 ～＋ 60 ℃
外形寸法　52（W）× 30（H）× 108（D）mm
質量　約 300 g

付属品

AC アダプター（1）
電源コード（1）
取扱説明書（1）
Windows 使用許諾書（1）
ソフトウェア使用許諾書（1）
通信カードドライバ使用許諾書（2）
ユーザー登録シート（1）
B & P ワランティブックレット（1）
VPN サービスについて（1）
保証書（1）

別売りアクセサリー

バッテリーチャージャー RVTA-BC100
内蔵バッテリー RVTA-BT100（連続伝送時間：約 90 分）
ショルダーストラップセット RVTA-ST100

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

この製品は、OpenSSL Toolkit のために OpenSSL プロジェクトが開発したソフトウェアを含みます。
This product includes software developed by the OpenSSL project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)

この製品は、Eric Young 氏によって記述された暗号化ソフトウェアを含みます。
This product includes cryptographic software written by Eric Young. (eay@cryptsoft.com)